

関西大学高等部・中等部 2024年度学校評価報告書



2025年3月

目 次

1. 本校の概要	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策 ...	1
3. アンケートの実施状況	13
4. アンケート結果の分析	14
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果	16
6. 校長の意見書	18
7. アンケート結果	19

1 本校の概要

(1) 沿革

2010年4月

高槻ミュージックキャンパスに関西大学の3つめの併設校として開校。関西大学の学是である「学の実化」の理念に基づき、初等部・中等部・高等部の12年一貫教育を実践。

2014年～2018年

高等部では「持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの創生」を掲げ、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）として採択される。

その実践をさらに深化させ、国連の提唱するSDGsの活動にも参加。

2019年～

開校10周年を迎え、新たな次の10年を見据えた一層の教育の充実に向けて始動。

(2) 教育理念・教育方針・教育目標等

関西大学の教育理念「学の実化」（学理と実際との調和、国際的精神の涵養、外国語学習の必要、体育の奨励）に基づき、教育を展開する。また、初等教育から高等教育までの一貫教育を同一キャンパス内で実践することのメリットを最大限に活用し、個人の成長段階を継続的に把握しながら、自ら考え、主体的に行動して責任をもってより良い社会を築くための力「考動力」を有する人材を育成する。

「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」をバランス良く高めることにより、人間力の基礎となる部分を養い、高い倫理観と品格を有する「高い人間力」を持つ人材を育成し、ユニバーサル（全世界的、万人に通じる、普遍的）な視野を持つ「たくましく」「しなやかな」人材を育成する。

2 今年度の重点目標における取り組み計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：確かな学力の定着と向上・進路の実現

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取り組み計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 家庭学習と、生徒の学力の定着を計画的に把握し、スローラーナーの学力向上をサポートする。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査の校内分析会を開催し、具体的な対策を検討する。 ・各定期考査及び学力推移調査 	<p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>年間計画通り5月に学力推移調査及びスタディサポートの分析会、10月、3月に学力推移調査の分析会を行った。いずれも、ベネッセの担当者をお招きし、資料をもとに具体的な分析を行った。</p> <p>今年度から各定期考査の成績不振者に対して、授業内容の重点的な復習を行い、教科担当から日々の学習方法等のアドバイスを受け、望ましい学習習慣を身につけることを目的とした7日間の「フォローアップ補習」を全教科で実施した。また、各学年で必要に応じて、放課後に小テストや課題点検を実</p>

<p>の成績不振者に対して個別指導等のフォローを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関して、生徒アンケート設問9で、80%以上の肯定的回答を得る。 ・スローラーナーへの対応に関して、生徒アンケート設問16で、70%以上の肯定的回答を得る。 	<p>施した。さらに各教科において、日常的に質問対応ができるように備え、昼休みや放課後の時間を使って丁寧に対応した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>学力推移調査の分析会には、進路指導部や中等部所属の教員が中心となって参加し、短所より長所にスポットをあてて検討会を行ったところ、学習時間の伸長などを共有することができ、今後の指導方法について確認することができた。</p> <p>今年度から始めたフォローアップ補習に関しては、保護者への案内を出し、保護者署名の受講証を回収するなど、保護者の協力のもと実施することができた。一方、放課後の実施であったため、家庭の都合で参加できない生徒については後日対応するなど、7日間では終了できないケースもあった。</p> <p>生徒アンケート設問9「学力向上のために組織的な取組を行っていると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で81.1%、高等部で85.4%と、目標を達成した。また、同設問16「習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で81.7%、高等部で82.9%と、昨年度を大きく上回り、目標を達成した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学力推移調査やスタディサポートの分析会については、中等部の授業担当教員が中心となって参加する傾向にあるが、6年間を見据えた教育活動を行っていくためには、分析会へ参加しやすい日程を調整するなど、全教員で関わっていただけるような仕組みが必要である。また、この分析会でのフィードバックを各学年で丁寧に行ったり、分析会に参加できなかった教員に対して指導の方向性を共有する場の設定を行ったりするなど、丁寧に情報交換することが必要である。</p> <p>フォローアップ補習については、保護者や教員からも肯定的回答は増えたものの、継続していくためには、実際の教育効果について、今後検証していく必要がある。</p>
<p>イ 生徒が希望する進路や学習状況を把握し、6年間を見通した進路指導を実現する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や個人懇談、三者 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>高等部で、年間計画通り4月と9月に進路希望調査を実施し、その時期に合わせて担任と生徒との個人懇談を実施した。また、中等部、高等部で、7月末と12月末に、担任と生徒、保護者との三者懇談を実施した。</p>

<p>懇談を実施し、生徒の志望状況を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学進学の情報提供等に関して、生徒アンケート設問 11 で、中等部 80%以上、高等部 85%以上、同設問 12 で、中等部 70%以上、高等部 85%以上の肯定的回答を得る。 	<p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <p>進路希望調査、教務部や各学年において作成した定期考査や模擬試験の結果、日頃の学習状況がわかる資料等をもとに三者懇談を行ったことで、保護者の意向も含め、丁寧に生徒の進路志望状況や学習状況を把握することができた。</p> <p>生徒アンケート設問 11「人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる仕組みがあると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 84.3%、高等部で 90.5%とそれぞれ目標を達成した。また、同設問 12「関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 76.5%、高等部で 88.6%とそれぞれ目標を達成した。</p> <p>【今後の改善方策 (Action)】</p> <p>アンケート結果は、いずれも目標を達成しているものの、高等部に比べ、中等部の肯定的回答の数値が低い。中等部の時期から、生徒たちにより明確な目標を持たせ、より自立した学習者となるよう、中等部においてもキャリア教育を充実させる必要がある。</p>
<p>ウ 高大接続を充実させたキャリア教育を推進し、関西大学への進学数を維持する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西大学学部説明会や、高大接続プログラムへの積極的な参加を促し、一人当たり 2 学部以上の参加をさせる。 関西大学へ 100 名以上の内部進学希望者を出す。 関西大学への内部推薦の合格率 100%を目指す。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取り組み状況 (Do)】</p> <p>進路指導部を中心に、高大接続の行事をなるべく多く年間行事に組み込み、生徒たちが、関西大学へ進学する際、ミスマッチがおこらないよう、各学年における説明会の実施や、高大連携イベントの情報提供、オープンキャンパス、学部説明会への参加を促した。</p> <p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <p>高等部 1 年生では関西大学説明会に学年全員が参加、高等部 2 年生では各学部説明会へ 1 人 2 学部以上の参加、高等部 3 年生では 2025 年度開設されるビジネスデータサイエンス学部の説明会に学年全員が参加した。</p> <p>さらに、法学部のクイズ大会、経済学部のパネルディスカッション、総合情報学部のキャンパスツアー、社会安全学部の安心安全に関する概説、システム理工学部のサーボモータの動作体験、その他商学部、政策創造学部、環境都市工学部の学部説明会について、高等部全学年を対象に情報を提供し、希望者が参加した。化学生命工学部の実験体験については、今年度初めて、中等部生にも参加を促し、5 名が参加した。人間健康学部については、教員対象説明会が開催され、中等部高等部の教</p>

	<p>員が参加した。</p> <p>また、関大の講義に学ぶ、高大連携特別プログラム、その他公開講座等にも、希望生徒が参加した。</p> <p>関西大学への内部進学希望者は 115 名で、特別推薦及びチャレンジ入試で 19 名、卒業見込者入試で 96 名が合格し、合格率は 100%であった。合格者 115 名は、過去最多の数である。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度、化学生命工学部のプログラムに中等部生が参加したように、他学部にも参加ができるよう取り組んでいく。また、中等部 1 年生、高等部 1 年生で、千里山フィールドワークを実施しているが、人間健康学部がある堺キャンパス、総合情報学部がある高槻キャンパス、ビジネスデータサイエンス学部がある吹田みらいキャンパスへも訪問する機会を検討し、高大接続をより充実させる。</p> <p>関西大学進学希望者状況については、次年度以降も 100 名以上が維持できるよう、引き続き進路指導部と各学年が連携し、丁寧な進路指導を実施していく。</p>
--	---

(2) 重点目標②：個性を伸ばす教育の実践

取り組み計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
<p>ア 探究学習の深化、充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中等部「考える科」「総合的な学習の時間」について、社会の変化に合わせて内容を進化させる。 ・ ポスター発表会や卒業研究発表会などを生徒がより主体的に参加できる取り組みに発展させる。 ・ 課題設定、情報収集、情報活用、表現活動など、探究学習に必要なコンピテンシーを育成する取り組みを充実させる。 ・ 探究学習に関して、生徒アン 	<p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>中等部の総合的な学習の時間では、年間計画通り 1 年生で「MACHI プロジェクト」、2 年生で「MIRAI プロジェクト」、3 年生で「MICHII プロジェクト」を実施し、フィールドワークや、ゲストティーチャーによる講演会を通じて、課題解決型の学習活動を行い、年度末に総合学習発表会を実施した。</p> <p>中等部の考える科では、新たに 2 年生で「聞く力」、3 年生で「対話型論証」の授業をとり入れた。</p> <p>高等部のプロジェクト学習では、6 月に 3 年生の卒業研究発表会予選会を実施し、2 年生も聴衆として参加した。また、2 週間後に、ここでの優秀発表者による卒業研究発表会本選会を実施し、高等部全学年が聴衆として参加した。11 月には 2 年生によるポスター発表会を実施し、1 年生と中等部 3 年生も聴衆者として参加した。2 月には 1 年生のポスター発表会を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>中等部の考える科において、社会や生徒の状況に合わせて内容を進化させることを目的として取り入れた 2 年生の「聞</p>

<p>ケート設問26で、中等部80%以上、高等部90%以上の肯定的回答を得る。</p>	<p>く力」、3年生の「対話型論証」の授業の実施により、それぞれ、各教科や総合的な学習の時間において、情報収集力や根拠をもとに主張を組み立てる力の向上が見られた。</p> <p>高等部3年生の卒業研究発表会予選会では、同ゼミの2年生と3年生が聴衆者として参加し、メモを取ったり、ループリックに沿った評価活動を行ったりしながら、意欲的に発表を聞くことができた。また、質疑応答の時間では、聴衆者から積極的に手が挙がり、活発な意見交流を行うことができた。同様に高等部全学年が参加した卒業研究発表会本選会においても、各学年の聴衆者から積極的に質問が出され、それに対して、発表者からの確に回答される場面が見られ、予選会、本選会ともに大成功であった。</p> <p>生徒アンケート設問26「プロジェクトの授業(考える科や総合的な学習の時間を含む)を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身についていると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で84.7%、高等部で90.8%と、それぞれ目標を達成した。</p>
<p>イ 国際理解教育の深化、充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部、高等部とも、海外の学校や団体との交流活動を積極的に展開する。 ・海外短期交換留学や語学研修について、それぞれ実施可能な生徒数を集める。 	<p>自己評価</p> <p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>短期交換留学において、5月に、今年度から開始した日韓交流プログラムで、韓国の東灘(ドンタン)国際高等学校から10名の短期交換留学生を受け入れた。この期間にハワイのミリラニ高等学校から9名の生徒が来校し、日韓米の3カ国で生徒交流を行うことができた。7月に、協定校の台湾國立臺灣師範大學附屬高級中學國中部から、中等部2年生の家庭に3名の留学生を受け入れた。また、12月には高等部12名の生徒が韓国へ、3月には中等部3名が台湾へ、高等部8</p>

- ・海外大学進学を希望する生徒に向けた取り組みを進める。
- ・国際理解に関して、生徒アンケート設問 25 で、75%以上の肯定的回答を得る。

名がシンガポールのホワチョンインスティテューションを訪問した。

夏期イギリス研修には、高等部 25 名が参加し、事前学習、コッツウォルズ地方でのホームステイ、現地校での語学研修、事後学習を行った。

中等部 3 年生で、5 年ぶりにカナダ研修旅行を実施し、現地のロイヤルベイ、エドワードミルン、ベルモントの 3 校を訪問して授業体験と、生徒交流を行った。

高等部 2 年生で、初めてタイ研修旅行を実施し、オンラインによる事前交流も含めて、現地のパンヤピワット経営大学附属高等学校 (SATIT PIM) との学校交流を行った。

中等部 3 年生で、昨年度に引き続き、1 月から 6 名の生徒がニュージーランドでホームステイと現地校でのターム留学を行った。

【達成状況 (Check)】 (◎)

韓国と台湾の生徒受け入れの際には、いずれも授業交流や京都エクスカッションなどを通して、留学生たちに日本の生活や文化を体験してもらうことができた。また、日韓交流プログラムの期間に行った日韓米の生徒交流は、国際交流委員会を中心に 3 カ国の生徒が交わるようなグループを構成し、ジャパディというゲームを楽しんだ。

日韓交流プログラムや台湾短期交換留学、シンガポール短期交換留学において、コミュニケーションの幅を広げるため、今年度から韓国語と中国語の第二外国語講座を開講し、発音や読み書きなど、参加した生徒は楽しく学習することができた。

中等部 1 年生の総合的な学習の時間において、都市交流系列の生徒が、エジプト、イスラエル、トルコの学校とオンライン交流を行うなど、中等部、高等部ともに海外の学校や団体と積極的に交流活動を実施することができた。

海外大学進学を希望する生徒に対する取り組みとして、海外大学進学コーディネーター教員を配置し、近畿日本ツーリストが提供している UPAS (海外大学進学協定校推薦制度) に加盟し、準備を進めることができた。

生徒アンケート設問 25「国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身についていると思いますか。」では、1・2 の肯定的回答が、中等部で 77.1%、高等部で 85.1%とそれぞれ目標を達成した。特に高等部では、今年度プログラムを大きく進展させたこともあり、昨年度を

	<p>大きく上回る結果となった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>中等部、高等部ともに海外の学校との交流活動が活発に実施され、交流校数が増加傾向にある中、さらに交流や訪問の問い合わせが多数入ってきている。次年度以降も継続して国際理解教育プログラムを進めていくが、交流校については一定の精査が必要である。</p> <p>短期交換留学や語学研修に興味を示す生徒や保護者は一定数いるものの、ホームステイの受け入れ家庭が見つけにくくなっていることは課題である。今後は初等部や高槻市と連携しながら受け入れ体制を検討していくことが必要である。</p> <p>海外大学進学についての制度は、順調に準備を進めているものの、次年度以降は、本校の生徒や保護者、本校への入学を志望している児童や生徒にもイメージできるような具体的な取り組みを検討したい。</p>
<p>ウ ICT 機器を活用した先進的な教育活動を取り入れる。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けに ICT に関する研修を年 1 回以上開催する。 ・ICT 推進委員会において、ICT 機器を活用した先進的教育活動の方向性を検討する。 ・ICT 環境の活用に関して、教員アンケート設問 17 で、85%以上の肯定的回答を得る。 ・学校感染症拡大防止のための休校や学年閉鎖、学級閉鎖等において、オンラインでの課題配信、動画配信、ライブ授業等の実施を促進する。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>7月に、ICT 委員会（生徒）主催で、生徒対象の ICT 研修をオンラインで実施した。</p> <p>ICT 推進委員会（教員）では、毎月 1 回の委員会を開催し、先進的な教育活動の方向性を検討した。</p> <p>感染症拡大防止のための学級閉鎖の際は、オンラインでの課題配信、動画配信、ライブ授業等に切り替えて実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <p>7月の生徒対象 ICT 研修では、耐震工事のためにアリーナが使用できなかったが、オンラインに切り替え、生徒会と ICT 委員会（生徒）主催で研修会を実施した。この研修会を企画した ICT 委員は、事前学習として総合情報学部森尾博昭教授にご指導いただき、専門的な視点を入れて研修資料の動画を編集し、研修会を実施した。</p> <p>ICT 推進委員会（教員）では、今年度は「生成 AI をどのように活用できるか」をテーマとして取り組み、株式会社サテライトオフィスの協力のもと、学齢に応じた活用方法について検討することができた。また、初等部と連携して情報活用能力スタンダードの策定と、生成 AI を活用するにあたり、必要なリテラシーとモラルの策定に向けて協議を始めることができた。</p> <p>ところが、教員アンケート設問 17「タブレット端末や PC など充実した ICT 環境を効果的に活用する授業づくりに取り組</p>

	<p>んでいる。」では、1・2の肯定的回答が、82.6%と目標を下回った。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>ICT推進委員会を中心に、ICTを活用した先進的な教育の方向性については協議しているものの、教員アンケート設問17の肯定的回答が昨年度を下回る結果となった。次年度以降、委員会レベルでの協議を各教員へも周知し、学校全体として取り組み、教員の意識改革をしていくことが必要である。</p> <p>また、ICT活用については、教員も生徒もより積極的に、より効果的に活用できるよう再度研修をする必要がある。</p>
<p>エ 地域社会や大学との連携を促進し、社会に開かれた教育活動の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」の全20ゼミで、外部講師を関西大学の教員から登用する。 ・ 中等部「考える科」「総合的な学習の時間」及び高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」で、積極的な（中高合わせて年間90団体以上の）地域や企業、学校と連携した活動を実施する。 ・ 外部のコンテストやコンクールへの参加を促進する。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>高等部1年生でのプロジェクト基礎10ゼミ、2年生でのプロジェクトゼミ10ゼミの合計20ゼミで、関西大学の教員による年間6回程度のゼミ指導を実施した。</p> <p>中等部「考える科」「総合的な学習の時間」及び高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」を中心に、学年活動や教科指導においても、積極的に地域に開かれた教育活動を展開した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>プロジェクト科目については、法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部、政策創造学部、総合情報学部、社会安全学部、環境都市工学部、化学生命工学部に加え、国際部から講師を招き、幅広い分野でご指導いただくことができた。</p> <p>中等部の考える科や道徳の時間、総合的な学習の時間及び高等部のプロジェクト学習、その他課外で取り組む探究学習において、100以上の団体との連携を実施し、目標を達成した。</p> <p>生徒アンケート設問8「様々な教育活動において、地域との連携を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で80.4%、高等部で83.2%とそれぞれ高い数値を示した。</p> <p>また、高等部生を中心に外部のコンテストやコンクール、発表会などへの参加を促した結果、日経STEAMシンポジウム2024(ポスターセッション優秀賞受賞)、未来の回転寿司共創プロジェクト(商品本部賞受賞)、SB Student Ambassador 北陸大会、SB Student Ambassador 西日本大会、みどり戦略学生チャレンジ応募、自由すぎる研究 EXPO、ウアイヌコロ会議参加、中高生探究コンテスト、東アジア小論文コンテスト(入賞)、高校生論文コンテスト、図書館を使った調べる学習コンクール(入賞)など多くのイベントに参加することができた。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>プロジェクト科目の外部講師については、なるべく多くの学部の教員に関わってもらえるよう、引き続き関西大学の関係部署や各学部と連携し、調整を進めていきたい。</p> <p>また、今後も地域社会との連携を促進し、社会に開かれた教育活動の充実を図るため、中高合わせて年間多くの企業や団体と連携した活動ができるよう調整を進めていきたい。</p> <p>特に 2025 年度は、大阪・関西万博が開催されることもあり、より地域との連携を強化し、本校も参画していきたい。</p>
--	--

(3) 重点目標③：教職員の自己研鑽及び学校経営の健全化

取り組み計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
<p>ア 授業力の向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思考力の育成」や「自律した学習者の育成」を目標とした授業研究を行い、校内研究授業を年 2 回以上実施する。 ・思考力に関して、生徒アンケート設問 13 で、80%以上の肯定的回答を得る。 	<p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>6月に各教科で研究授業と研究協議会を実施した。</p> <p>11月に「高槻ミュージックキャンパス初・中・高をつなぐ英語考動力育成のためのカリキュラム開発」というテーマで、初中高合同英語研究授業と研究協議会を実施した。</p> <p>2月に初等部研究大会において、中等部も「探究心と創造的思考力の育成～問いを引き出す授業デザイン～」という主題で参加した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>11月の初中高合同英語研究授業には、平日であるにもかかわらず、40名以上の申込みがあった。当日は関西大学外国語学部の今井裕之教授を講師としてお招きし、午前中の初等部6年生、中等部2年生、高等部2年生の公開授業と、午後の研究協議会を実施した。協議会にも多くの教員が参加し、活発な意見交流が行われた。初等部、中等部、高等部の各授業を同時に公開する取り組みは本校初の試みであり、参加した教員にとって非常に学びのある取り組みとなった。</p> <p>2月の初等部研究大会では、問いを引き出す授業デザインに焦点をあて、国語科、数学科、社会科、理科、外国語科、保健体育科から合計6クラスの公開授業を行い、それぞれ研究協議会を実施した。初等部の研究大会で6クラスの公開授業を実施したこと、研究協議会を実施したことはいずれも開校以来初の試みであり、指導案の作成から研究協議会まで、各教科が同じテーマで取り組んだことは中等部として大きな前進であった。</p> <p>生徒アンケート設問 13「ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思</p>

	<p>いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で83.0%、高等部で91.4%と、それぞれ目標を達成した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>年2回の研究授業を充実させ、同じテーマで研究することで、それぞれの教員が授業力の向上に努める。今年度は外国語科で初めて初中高合同の研究授業を実施したが、このような一貫教育の取り組みを他教科にも広げていきたい。</p> <p>初等部研究大会で6クラスの公開授業を行ったこと、研究協議会を実施したことは大きな前進であったが、引き続き各教科において、「思考力の育成」や「自律した学習者の育成」を目標とした研究を進めていく必要がある。</p> <p>また、次年度以降、授業力向上のための教員研修も計画していきたい。</p>
<p>イ 教員研修の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 研修を年1回以上実施する。 ・ 人権研修を年1回以上実施する。 ・ AED 研修を年1回以上実施する。 ・ 防災研修を年1回以上実施する。 ・ 研修体制に関して、教員アンケート設問32で、65%以上の肯定的回答を得る。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>4月に AED やエピペン講習を含む事故防止に関する教員研修を実施した。</p> <p>5月にデジタル採点システムに関する教員研修を実施した。</p> <p>6月と11月に人権教育の教員研修を実施した。</p> <p>7月に校内防災訓練、11月に関大防災 DAY を実施した。</p> <p>12月に生徒指導・保護者対応に関する教員研修を実施した。</p> <p>2月に探究学習の教員研修を実施した。</p> <p>今年度の重点項目に「教員の自己研鑽」を掲げ、教員に研修への参加を促し、各教員の研修状況を集約した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>4月の事故防止研修では、例年通り5つのグループに分かれ、今年度は「不審者侵入」「オーバードーズ」「てんかん発作」をロールプレイ型で体験し、「エピペン」「AED」の講習を受け、全体でふりかえりを行った。講師には高槻市消防本部の植西祐希氏をお招きし、ロールプレイのふりかえりに対する講評をいただいた。</p> <p>6月の人権教育研修には、岩山カイナ氏を講師として生徒への合理的配慮等の支援方法を考える研修、11月の人権教育研修には、岡本工介氏を講師として幅広い様々な人権問題(差別事象)について考える研修を実施した。</p> <p>7月の校内防災訓練では、初期対応を中心とする教員の動きを確認した。ここでは、授業担当者が緊急対応シートを利用して生徒の状況を職員室に内線電話で報告し、職員室内で情</p>

	<p>報収集を行った。この研修には社会安全学部の小山倫史教授にも参加していただき、助言をいただいた。また、11月の関大防災 DAY では、生徒のエレベーター内の閉じ込め、教室内での負傷を想定するなど、7月の防災訓練からレベルを上げた内容を設定し、火災発生によるグラウンド避難を訓練した。エレベーター内閉じ込めと負傷生徒については、初めての想定であったが、教員がそれぞれ役割通りに対応することができた。</p> <p>12月の生徒指導・保護者対応研修では、事例をもとにワークショップ形式で、生徒や保護者への対応について考えることができた。生徒指導関係の校内研修は初の試みであったが、非常に充実した研修となった。</p> <p>2月の探究学習研修は、昨年度に引き続き、教育推進部の山田剛史教授を講師としてお招きし、ワークショップ形式も取り入れながら、総合的な探究の時間と各教科のつながりについて考える機会となった。</p> <p>今年度の教員の校内研修と自主研修の状況を集約したところ、約50名の教員で延べ450回以上の研修を受けていることがわかった。最も多い教員は年間40回以上の研修を受けていた。本校で最も多く受講された研修の内容は人権教育、進路指導、教科指導であった。</p> <p>教員アンケート設問32「本校は、教員の資質向上及び指導力向上のための校内外の研修体制が整っている。」では、1・2の肯定的回答が、67.4%と昨年を上回り、目標を達成した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>教員の研修状況については、各教員が意欲的に参加したものの、本校の特色である探究学習、国際理解教育、ICTに関する研修への参加が他に比べて少ない。また、入試広報に関する研修にも参加者が少ない結果となった。</p> <p>今後は、本校が目指す教育活動に適した校内研修を増やすなど、工夫していく必要がある。</p>
<p>ウ 超過勤務時間の削減に向けた業務改善や組織体制の強化を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分掌において業務の見直しを検討する。 各分掌主任と定期的に面談を 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>各分掌主任と定期的に面談を行い、業務の遂行状況の確認及び業務見直しの可能性について聞き取りを行った。</p> <p>各部活動・同好会顧問と相談し、外部指導員の業務委託を検討した。</p> <p>超過勤務が多い教員に対して、面談を実施した。また、その教員が所属する学年や分掌主任とも状況を共有した。</p>

<p>行い、業務の遂行状況を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動・同好会の指導における外部指導員を昨年度より増員する。 ・月に1回以上、超過勤務削減に向けた面談を実施する。 ・各種会議に関して、教員アンケート設問4で、75%以上の肯定的回答を得る。 	<p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <p>各分掌主任と定期的に面談し、各教員の業務の遂行状況の確認を行い、超過勤務の多い教員に対しても丁寧な面談を行ったものの、業務の見直しと超過勤務の削減には至らなかった。</p> <p>部活動指導については、指導時間や指導回数の多い部の顧問と相談し、顧問数を増やした他、外部指導員を昨年度より増員することができた。</p> <p>教員アンケート設問4「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。」では、1・2の肯定的回答が、73.9%と昨年を下回り、目標を達成できなかった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>次年度以降、質の高い教育の提供と、教員の健康管理のためにも、超過勤務の削減に向けた業務の見直しは必須であり、超過勤務が慢性的に多い教員については、勤務計画を立てて業務を遂行するような工夫も必要である。</p> <p>一方、超過勤務の内容に生徒指導に関する内容が多く含まれることから、生徒間トラブルを未然に防ぐことができるような積極的な指導ができるよう、教職員のスキルアップを図る必要がある。</p> <p>教員アンケート設問4の肯定的回答が昨年度を下回ったことから、丁寧な情報共有や建設的な議論ができるよう、各種会議に関する運営についても見直しが必要である。</p>
<p>エ 学校経営の健全化を進める。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に危機管理や個人情報管理に関する情報提供、注意喚起、研修等を行い、生徒や教員にとって安心して安全な学校経営を推進する。 ・教員間の協力体制に関して、教員アンケート設問5～7で、それぞれ70%以上の肯定的回答を得る。 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取り組み状況(Do)】</p> <p>年度初めに危機管理事項や個人情報に係わる管理事項を示し、教員に対して注意喚起を行った。</p> <p>自然災害に関して、地震対応マニュアルの策定や、特別警報及び各警報発令時の対応の見直しを行った。</p> <p>教職員によるセクシュアルハラスメント防止ガイドライン、体罰防止ガイドラインの策定を行った。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>危機管理事項や個人情報に関わる管理事項については、年度初めの職員会議で丁寧に説明し、定期的に確認する機会を設けた。特に個人情報については、校外への持ち出しを必要最小限に抑え、持ち出す際には申請書の提出を徹底した。</p> <p>近い将来発生すると予想される南海トラフ地震に備え、大阪府や関西大学、関西大学高槻ミューズキャンパスの地震対応マニュアルに基づき、中等部高等部における大地震発生直</p>

	<p>後の緊急対応マニュアルを策定し、実際に防災訓練の際に活用した。また、近年増えてきている暴風雨による特別警報及び各警報発令時の対応についても、生徒たちがより安全に登下校ができるよう見直しを行った。</p> <p>さらに、教員と生徒間でのトラブルを未然に防ぐために、教職員によるセクシュアルハラスメント防止ガイドライン、体罰防止ガイドラインの策定を行い、職員会議で注意喚起を行った。</p> <p>教員アンケート設問5「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。」では、1・2の肯定的回答が、82.6%と昨年を大きく上回り、目標を達成した。また、同アンケート設問6「管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。」では、1・2の肯定的回答が78.3%、同アンケート設問7「教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。」では、1・2の肯定的回答が97.8%と、いずれも目標を達成した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度からは、海外研修旅行も再開し、短期交換留学やターム留学など、生徒が海外へ出る機会が大きく増えた。さらに、昨今の世界情勢も踏まえて、海外研修旅行の危機管理マニュアルの策定が必要である。</p> <p>また、今年度は大阪での真夏日が過去最多になるなど、今後このような状況の中で教育活動を行う可能性があり、熱中症予防対策マニュアルの策定も必要である。</p> <p>教員の世代交代が進む中、それぞれの経験の差はあるものの、教員だけでなく事務職員も含めて、それぞれの立場や意見を尊重し、それぞれの持ち味を発揮して、信頼関係を築きながら学校運営にあたることができるよう、日頃からコミュニケーションを大切にしていきたい。</p>
--	--

3 アンケートの実施状況

生徒、保護者、教員へそれぞれのアンケート項目を設け、いずれも11月22日から12月26日の間に期間を設けGoogleフォームを使用して実施した。生徒は各学年でアンケート回答のための時間を取って実施した。保護者へは一斉メールで、教員へは教務システム(Siems)で、アンケートの回答依頼をした。

(1) 生徒の評価

11月に中等部と高等部について、同項目でアンケートを実施した。アンケート項目については、昨年度と同様30項目である。回答率は、2021年度88.2%、2022年度84.8%、2023年

度 81.6%に対し、今年度は 86.0%（生徒数 785 名中 675 名提出）であった。

（2） 保護者の評価

11 月に中等部と高等部について、同項目でアンケートを実施した。アンケート項目については、昨年度と同様 29 項目である。回答率は、2021 年度 77.7%、2022 年度 69.1%、2023 年度 39.6%に対し、今年度は 74.8%（全 785 名中 587 名提出）であった。昨年度の回答率が低かったこともあり、今年度は 12 月に再度一斉メールと三者懇談において、アンケート回答の依頼をした。

（3） 教員の評価

11 月に中等部と高等部の教諭、常勤講師、特別契約教諭、特任外国語講師に対して実施した。アンケート項目については、昨年度と同様 33 項目である。回答率は、2021 年度 66.0%、2022 年度 80.8%、2023 年度 78.1%に対し、今年度は 80.7%（全 57 名中 46 名提出）であった。

4 アンケート結果の分析

アンケートについては、「そう思う」…1、「どちらかと言えばそう思う」…2、「どちらかと言えばそう思わない」…3、「そう思わない」…4 の回答について結果を集約した。

（1） 生徒アンケートについて

設問 1「充実した学校生活を送っていると感じていますか。」では、1・2 の肯定的回答が、中等部で 92.8%、高等部で 94.9%であり、設問 2「本校に入学して良かったと思いますか。」では、同様に中等部で 90.5%、高等部で 89.7%と高い評価になっており、多くの生徒が本校での教育活動に満足していることがわかる。

設問 11「人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる仕組みがあると思いますか。」では、1・2 の肯定的回答が、中等部で 84.3%、高等部で 90.5%であり、設問 12「関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。」では、同様に中等部で 76.5%、高等部で 88.6%と、いずれも昨年度を上回る結果となっており、高大接続を充実させたキャリア教育の成果が見られた。特に設問 11 に関しては、高等部で 1・2 の肯定的回答が、2022 年度が 63.8%、2023 年度が 88.1%であったため、近年の取り組みの成果が顕著に現れている。

今年度は、各定期考査終了後にフォローアップ補習を実施したことで、設問 16「習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。」では、1・2 の肯定的回答が、中等部で 2023 年度 64.8%、今年度 81.7%、高等部で 2023 年度 70.1%、今年度 82.9%と、いずれも昨年度を大きく上回り、生徒の意識の変化が見られた。今後はこの意識の変化から学力向上へとつなげていきたい。

全体を通して、確かな学力の定着と進路の実現、探究学習や国際理解教育の深化と充実、生徒のマナーやモラル、いじめを許さない指導、生徒主体の行事運営については、概ね高い評価を得ているものの、本校の特色である ICT 機器を活用した先進的な教育活動については、改善策が必要である。

(2) 保護者アンケートについて

設問1「お子様は、充実した学校生活を送っていると思われませんか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2023年度89.3%、今年度89.4%、高等部で2023年度91.1%、今年度92.8%であり、設問2「保護者として、本校に入学させて良かったと思われませんか。」では、同様に中等部で2023年度87.5%、今年度89.8%、高等部で2023年度91.8%、今年度94.0%と、いずれも昨年度以上に高い満足度を得ている。

設問3「本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2023年度94.0%、今年度94.0%、高等部で2023年度90.3%、今年度95.3%であり、設問5「ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。」では、同様に中等部で2023年度63.1%、今年度66.8%、高等部で2023年度64.2%、今年度69.7%と、昨年度を上回る結果となっており、保護者の学校への関心が年々高まっていることがわかる。一方、設問16「学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思いませんか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2023年度76.2%、今年度71.7%、高等部で2023年度81.3%、今年度77.5%であり、設問21「学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。」では、同様に中等部で2023年度75.6%、今年度69.4%、高等部で2023年度74.6%、今年度74.4%と、いずれも昨年度より下回る結果となった。今後は、SNS等を有効に活用しながら、学校からの情報発信を行うとともに、効果的な懇談のあり方について、改めて教員間の共通理解を図るなど、日常的な保護者との連携を密にしていくことが課題である。

設問15「習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われませんか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2023年度51.2%、今年度68.6%、高等部で2023年度58.2%、今年度67.8%と、今年度実施したフォローアップ補習実施の認知が高まっていることがわかる。今後は生徒一人ひとりに学力を定着させることで、より保護者への理解を深めていくことが課題である。

生徒アンケートと同様に、確かな学力の定着と進路の実現、探究学習や国際理解教育の深化と充実については、概ね高い評価を得ているものの、設問14「タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われませんか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2023年度79.8%、今年度72.0%、高等部で2023年度92.5%、今年度89.1%と、いずれも昨年度を下回る結果となり、授業づくりを含め、ICTの効果的な活用について改善が必要である。

(3) 教員アンケートについて

全設問の33項目中、1・2の肯定的回答が昨年度よりも上回った項目が27項目、その中でも昨年度より5ポイント以上上回った項目が24項目あり、今年度は教員にとって満足した教育活動を行うことができたのではないかと考えられる。

設問18「習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導を行っている。」では、1・2の肯定的回答が89.1%と昨年度の67.4%を大きく上回った。これは、生徒アンケート、保護者アンケートと同様、フォローアップ補習実施により、意識が高まったものと思われる。一方、設問16「定期考査や模擬試験等の結果の活用や面談等を実施し、学習状況を計

画的に把握して、学年集団・個人への効果的な学習指導体制が取られている。」では、1・2の肯定的回答が2023年度90.4%、今年度86.9%、設問17「タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。」では、1・2の肯定的回答が、2023年度86.0%、今年度82.6%といずれも昨年度を下回っており、フォローアップ補習を継続しながらも、授業づくりを含めて効果的な学習指導体制の改善が必要である。

また、設問19「学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。」と、設問24「生徒の学校での様子の報告や、家庭での様子の把握のため、電話連絡や面談等を行い、保護者との連絡を緊密に行い、相互理解を図っている。」では、1・2の肯定的回答がいずれも高評価であるにもかかわらず、生徒アンケートと保護者アンケートの同項目の結果では、昨年度から評価が下がっており、生徒や保護者との面談の方法や、家庭連絡の方法を見直し、学校と家庭とがより良い信頼関係を築きながら教育活動を進めていけるよう努めていく必要がある。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①：「確かな学力の定着と向上・進路の実現」について

・学力向上についてスローラーナーを対象にフォローアップ補習を行ったことがわかるが、全般的な学力向上について具体的にどのような取り組みをしたのか関心がある。フォローアップ補習を行うことで学力の底上げとなった印象があるが、担任と生徒が定期的に二者面談を行い、成績や勉強意欲等の確認をする機会を設け、綿密なコミュニケーションを図っていることも一つの要因だと考えられる。

・生徒用アンケートの設問16と評価指標について、対象生徒が全校生徒の1～2割と非常に少ないことや成績が標準より高い生徒には関連性が低いことから、アンケートの設問自体の見直し、もしくは補習対象生徒に特化したアンケートの実施が必要ではないかを感じる。

・設問16について、併設校共通項目であるが、対象者が少ない項目に係るアンケートの取り方については、今後の課題として検討してはどうか。また、次年度以降、補習対象生徒や保護者に対して、補習実施後にアンケートを実施し、検証すると更に良い調査になると感じる。

・設問16の数値が上がった要因として、年度始めの保護者懇談会にて周知したうえで、対象生徒の保護者には同意を得て実施しているとのことであった。また、学校の年間行事に組み込むなど、戦略的に保護者への周知を強化した点も効果があったと考える。

・保護者用アンケートの結果で「そう思わない。」と評価した割合が生徒用アンケートの結果より高かったことについて、学校が補習対象者を選ぶだけでなく、例えば希望をすれば個人的に補習を受けることができる仕組みにしてはどうか。

・学校として早い段階でフォローアップ補習を実施する仕組みがあるのは非常に良いが、多感な年代である生徒自身はどのように受け止めているのかということについて、学校全体としての取り組みであることを生徒自身が認識していること、補習後に生徒から教員へお礼の言葉があること、わからない箇所がわかるようになる喜びを実感しながら前向きに勉学に励んでいる様子が見られることなどから、教員と生徒が円滑なコミュニケーションを図り、距

離感を縮めながら良い効果を生んでいる状況であること等がわかった。

- ・理系を目指す生徒を増やすということだが、併設校特有の問題と考える学部・学科の入学枠が限定されることで、希望の学部・学科に入れないこと、さらには他大学を選ぶしかないといった進路選択の際に障害が生じていないかが気になっている。文系でも学科によって学問分野が大きく異なるため、必ずしも理系特有の問題ではないと考えるが、理系を目指す人が年々減っている実感はある。少しでも理系に興味をもつ人を増やすことができれば良いと考える。

- ・まだキャリアイメージが定まっていない中等部の時期から生徒に理系の体験をさせることは重要だと考えており、学校として中大連携プログラム等に積極的に参加させている。意識的に理系の専門的なプログラムに触れる機会を作ることで、生徒が具体的なイメージを高められたら良いと感じている。

- ・昨今、文理融合型の学部も増えており、併設校生徒を対象とした本学の文理融合型3学部の合同説明会等の開催について、併設校側から大学側に呼びかけを行い、いずれ実現できれば、生徒にとって進路の選択肢がより広がるのではないかと。

イ 重点目標②：「個性を伸ばす教育の実践」について

- ・国際理解教育の達成度が高いのは大いに評価できるが、ICT 関連については例年同じことをしていると自ずと評価は下がってくる。取り組みが後退しているわけではないが、公立学校でもタブレットやPC 端末は今や誰もが利用していることから、今後は生成 AI 等を活用しながら学びにつながる画期的な取り組みを進めていくことを期待したい。

- ・総合的な学習について、総合学習発表会を通して、生徒が上の学年の生徒の発表内容や発表までの学習過程を見ることにより1年先のことが想像しやすく、先の見通しが立つ仕組みができていたことは非常に素晴らしいと感じた。

ウ 重点目標③：「教職員の自己研鑽及び学校経営の健全化」について

- ・教員研修を強化したとのことだが、個人の研修で留まるのではなく、研修で得た知識や情報等の成果を校内にフィードバックし、還元するような研修報告会を校内の教員が企画できれば良いと考える。

- ・研究授業については、授業者の負担にならないようにすることが重要だと考えている。特別な授業をするというより、先生方には日々の授業の力量を上げてもらう方が重要だと考える。また、見る側の力量アップとして自身の担当外教科の授業見学を通して見学した教科の授業と自身の授業とを比べて生徒の様子、授業への取り組む姿勢に何か違いがあるか、分析する工夫があれば良いと感じる。

- ・働き方改革については、どの学校の先生方もご苦労されていると感じている。

- ・教員の超過勤務に関連して、P. 12 今後の改善方策に記載されている「教職員のスキルアップを図る必要」については、まず教員が日頃から子供たちに寄り添い、綿密なコミュニケーションを図りながら適切な指導を心掛けることが重要である。

(2) アンケート結果について

- ・生徒のアンケート結果については、概ね 90%程度で肯定的な数値が出ており、生徒たちが楽しい学校生活を送れていると考える。
- ・保護者のアンケートについては、昨年度回答率が非常に低かったが、今年度は 75%弱まで回答率を高くすることができ、大きく改善できている。記名式にして未回答者に呼びかけるようにすれば、もう少し回答率が高まるかと考える。
- ・教員のアンケート結果について、全設問 33 項目中、昨年度よりも肯定的回答が上回った項目が 27 項目もあり、先生方が比較的満足度の高い教育活動ができているのではないかと。
- ・生徒と保護者間等でアンケート結果の数値の差が生じている部分については、今後も意識されたい。
- ・初中高連携についてはこの 2 年で大きく前進したと感じている。英語合同研究授業の公開のみならず、初中高大合同で AI ガイドラインを作成し、AI リテラシーのカリキュラム策定を目指している。文部科学省のガイドライン策定に先駆けて、本校が昨年からの AI 策定委員会の準備をしてきたことあり、3 月に開催される日本教育工学会にて発表ができればということであった。日本で一番、をキーワードにして連携を進めていることを評価したい。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
丹 家 敬	高槻市立中学校校長会 会長、高槻市立阿武山中学校 校長
橋 本 欣 也	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
城 下 英 行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
松 村 湖 生	関西大学中等部・高等部 校長

6 校長の意見書

関西大学中等部・高等部
校長 松村湖生

重点目標①「確かな学力の定着と向上・進路の実現」の中で、昨年度から大きな課題であったスローラーナーへの対応については、フォローアップ補習の実施により、同項目のアンケート結果で、生徒、保護者、教員のいずれにおいても、肯定的回答の割合が昨年度を大きく上回った。さらに、同補習において、生徒が意欲的に参加していたり、補習後に受講した生徒から担当教員にお礼の言葉があったりしたことから、生徒と教員とが良好な関係のもと実施できたことも伺えた。一方、学校関係者評価委員（以下、「委員」という。）からは、フォローアップ補習の対象生徒が非常に少ないことから、アンケートの設問の見直し等の意見が出され、次年度以降は対象となる生徒や保護者へのアンケートを実施するなどの検証が必要である。また、今年度と同様、保護者懇談会での周知、保護者からの同意を得ての実施など、保護者の協力のもと実施していきたい。

同目標の中で、高大接続を充実させたキャリア教育については、昨年度以上に生徒へ高大連携イベントの情報提供や学部説明会等への参加を促したところ、多くの生徒が参加した。特に今年度は理系教育の充実も推進しており、化学生命工学部のプログラムに中等部生が参加できたことは大き

な成果であった。このように、キャリアイメージが定まっていない時期から理系プログラムに参加し、体験を積むことは重要だと考えており、次年度以降も、引き続き中等部生が参加できる学部が増えるよう、大学との連携を深めていきたい。また、委員から提案があったように、文理融合型の学部が増えてきたことにより、文理融合型学部の合同説明会の開催についても、大学と連携をしながら実現に向けて取り組んでいきたい。

重点目標②「個性を伸ばす教育の実践」の中で、昨年度課題であった国際理解教育の深化と充実については、新しいプログラムの導入や丁寧な保護者への連絡の成果があり、同項目のアンケート結果で、生徒、保護者、教員のいずれにおいても、肯定的回答の割合が昨年度を大きく上回った。また、探究学習の深化と充実については、例年と同様に同項目のアンケート結果で、肯定的回答が高い割合を示している。この2つに関しては、本校の特色の大きな柱として、次年度以降も深化と充実を図っていきたい。一方、ICT 関連については、同項目のアンケート結果で、生徒、保護者、教員のいずれにおいても、肯定的回答の数が減少した。委員からの意見にもあるように、現在では様々な学校でタブレット端末等の利用が増え、本校も取り組みが後退しているわけではないが、同じ取り組みであれば評価は下がってくる。次年度以降は、本校の ICT を活用した教育について、再度検討し、生成 AI を活用した教育を実践するなど、新しい取り組みにチャレンジしたい。

さらに、初中高の連携についても、開校以来、本キャンパスの特色づくりに必要不可欠なものである。この2年間で大きく前進してはいるが、児童や生徒にとって有益なものになるよう、引き続き発展させていきたい。

重点目標③「教職員の自己研鑽及び学校経営の健全化」について、教員研修を推進し、校内研修の数を増やした。また、多くの教員が校内研修だけでなく、積極的に自己研修にも参加したことは大きな成果であった。さらに、次年度以降は、委員からの意見にもあるように、各教員が研修で得た知識や情報等の成果を校内の教員にフィードバックするような仕組みを構築していきたい。

また、重点目標①にもあてはまるが、生徒の学力を向上させるためには、教員の授業力向上が必要である。次年度以降、教員が日々の授業の力量を上げていけるよう、公開授業や研究授業を上手に活用し、その手法についても検討しながら研修の機会を設けていきたい。

アンケート結果について、今年度も本校の多くの生徒が学校生活を楽しいと感じ、本校に入学して良かったと思っていることは、喜ばしいことである。昨年度、保護者アンケートの回答率が非常に低く、今年度は複数回にわたり保護者へ呼びかけをしたところ大きく改善できた。次年度以降も、ゆとりのあるアンケートの実施を計画し、高い回答率を得ることができるよう努力したい。また、教員のアンケート結果において、昨年度よりも肯定的回答が上回った項目が大きく増加し、教員にとって比較的満足度の高い教育活動ができていることがわかるが、一方、保護者・生徒と教員間でのアンケート結果の数値の差が生じていることもあり、この乖離している要因を探るなどの対策を行い、生徒や保護者にとっても満足な教育活動ができるよう真摯に取り組んでいきたい。

7 アンケート結果

2024 年度	関西大学中等部・高等部	自己点検・評価アンケート結果（生徒用）
2024 年度	関西大学中等部・高等部	自己点検・評価アンケート結果（保護者用）
2024 年度	関西大学中等部・高等部	自己点検・評価アンケート結果（教員用）

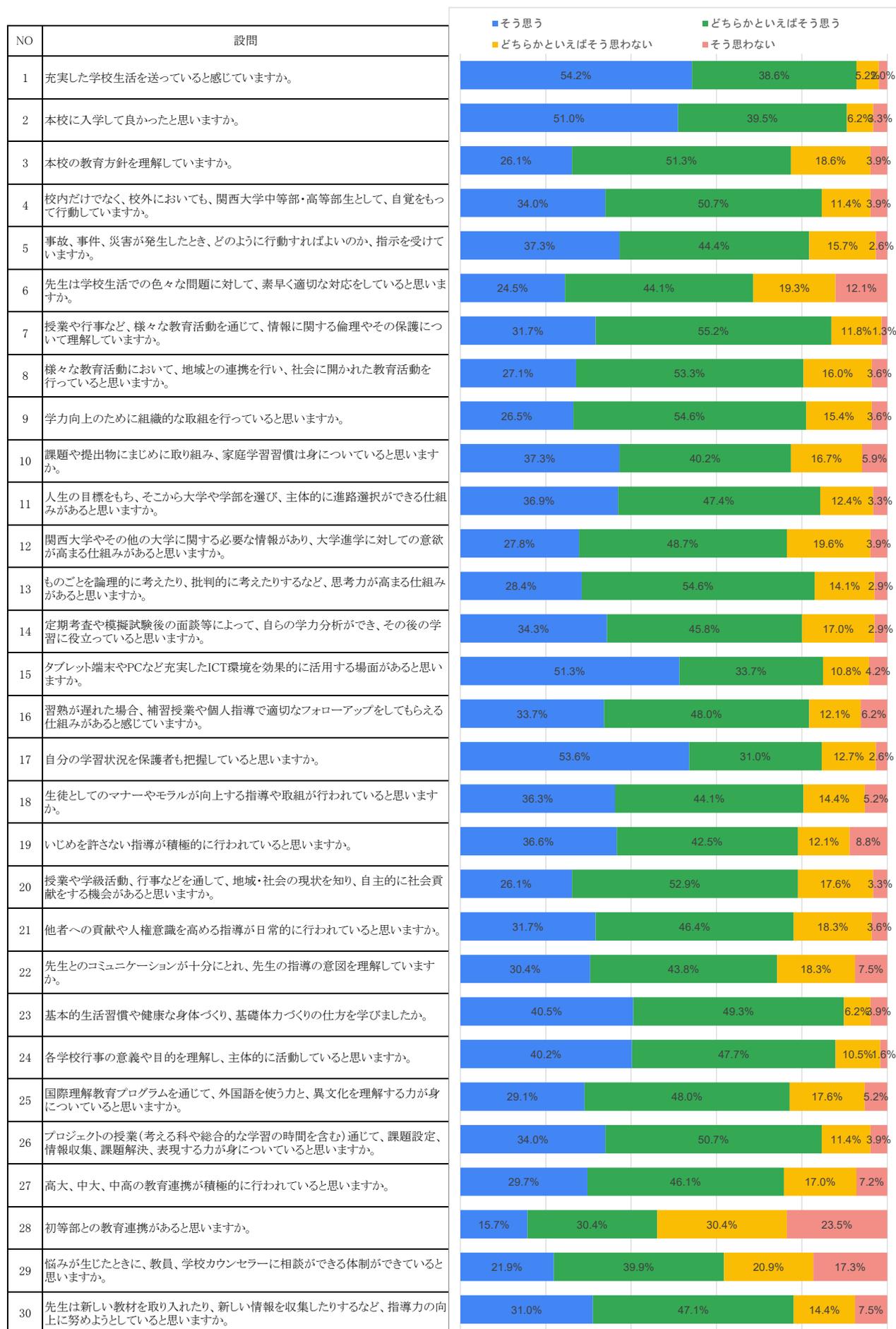
2024年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（生徒用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

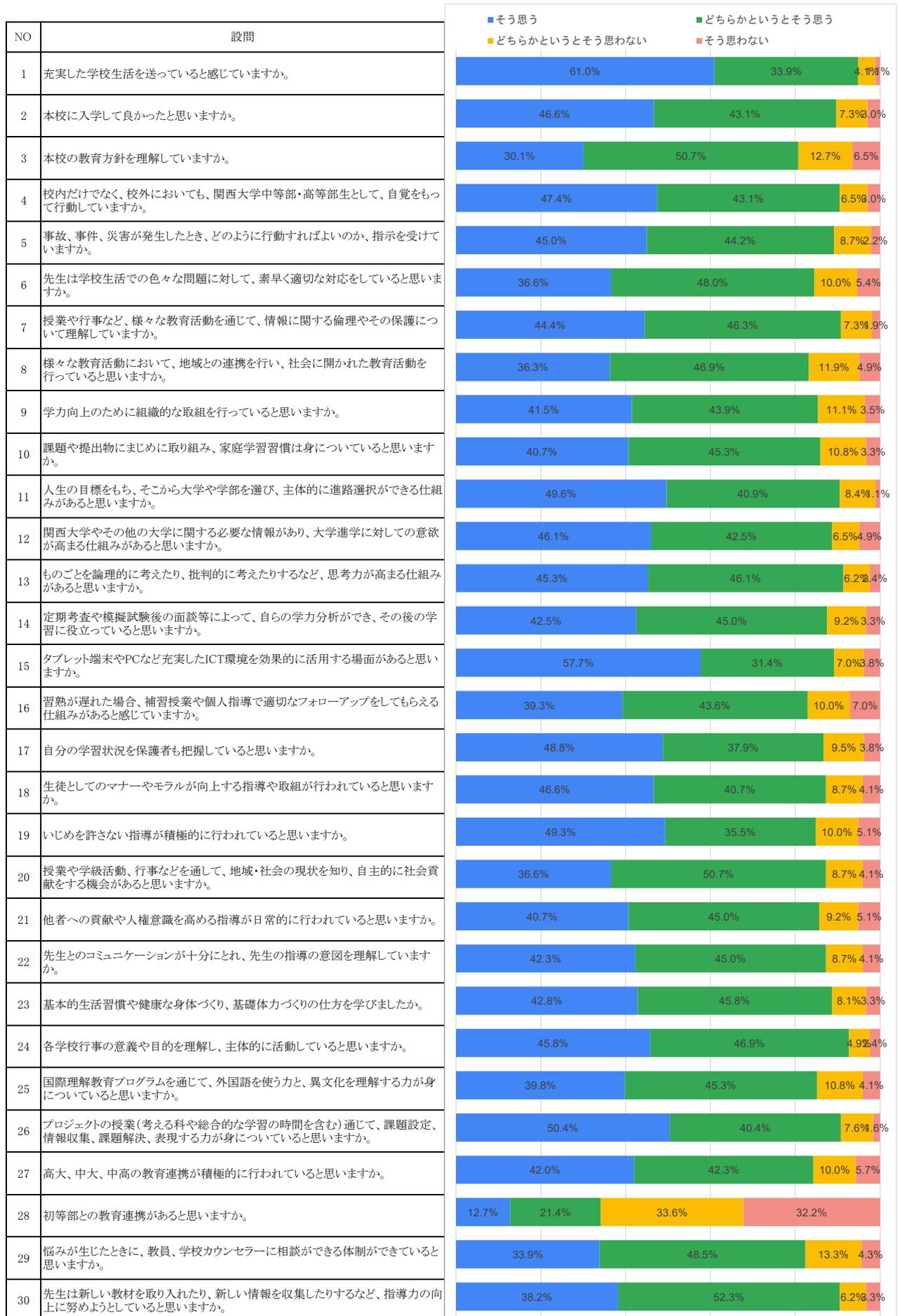
NO	設問	中部部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	充実した学校生活を送っていると感じていますか。	54.2%	38.6%	5.2%	2.0%	61.0%	33.9%	4.1%	1.1%
2	本校に入学して良かったと思いますか。	51.0%	39.5%	6.2%	3.3%	46.6%	43.1%	7.3%	3.0%
3	本校の教育方針を理解していますか。	26.1%	51.3%	18.6%	3.9%	30.1%	50.7%	12.7%	6.5%
4	校内だけでなく、校外においても、関西大学中部部・高等部生として、自覚をもって行動していますか。	34.0%	50.7%	11.4%	3.9%	47.4%	43.1%	6.5%	3.0%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。	37.3%	44.4%	15.7%	2.6%	45.0%	44.2%	8.7%	2.2%
6	先生は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。	24.5%	44.1%	19.3%	12.1%	36.6%	48.0%	10.0%	5.4%
7	授業や行事など、様々な教育活動を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。	31.7%	55.2%	11.8%	1.3%	44.4%	46.3%	7.3%	1.9%
8	様々な教育活動において、地域との連携を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思いますか。	27.1%	53.3%	16.0%	3.6%	36.3%	46.9%	11.9%	4.9%
9	学力向上のために組織的な取組を行っていると思いますか。	26.5%	54.6%	15.4%	3.6%	41.5%	43.9%	11.1%	3.5%
10	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	37.3%	40.2%	16.7%	5.9%	40.7%	45.3%	10.8%	3.3%
11	人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる仕組みがあると思いますか。	36.9%	47.4%	12.4%	3.3%	49.6%	40.9%	8.4%	1.1%
12	関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。	27.8%	48.7%	19.6%	3.9%	46.1%	42.5%	6.5%	4.9%
13	ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思いますか。	28.4%	54.6%	14.1%	2.9%	45.3%	46.1%	6.2%	2.4%
14	定期考査や模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていると思いますか。	34.3%	45.8%	17.0%	2.9%	42.5%	45.0%	9.2%	3.3%
15	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する場面があると思いますか。	51.3%	33.7%	10.8%	4.2%	57.7%	31.4%	7.0%	3.8%
16	習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	33.7%	48.0%	12.1%	6.2%	39.3%	43.6%	10.0%	7.0%
17	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	53.6%	31.0%	12.7%	2.6%	48.8%	37.9%	9.5%	3.8%
18	生徒としてのマナーやモラルが向上する指導や取組が行われていると思いますか。	36.3%	44.1%	14.4%	5.2%	46.6%	40.7%	8.7%	4.1%
19	いじめを許さない指導が積極的に行われていると思いますか。	36.6%	42.5%	12.1%	8.8%	49.3%	35.5%	10.0%	5.1%
20	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を知り、自主的に社会貢献をする機会があると思いますか。	26.1%	52.9%	17.6%	3.3%	36.6%	50.7%	8.7%	4.1%
21	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	31.7%	46.4%	18.3%	3.6%	40.7%	45.0%	9.2%	5.1%
22	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。	30.4%	43.8%	18.3%	7.5%	42.3%	45.0%	8.7%	4.1%
23	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	40.5%	49.3%	6.2%	3.9%	42.8%	45.8%	8.1%	3.3%
24	各学校行事の意義や目的を理解し、主体的に活動していると思いますか。	40.2%	47.7%	10.5%	1.6%	45.8%	46.9%	4.9%	2.4%
25	国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身につけていると思いますか。	29.1%	48.0%	17.6%	5.2%	39.8%	45.3%	10.8%	4.1%
26	プロジェクトの授業(考える科や総合的な学習の時間を含む)を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身につけていると思いますか。	34.0%	50.7%	11.4%	3.9%	50.4%	40.4%	7.6%	1.6%
27	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思いますか。	29.7%	46.1%	17.0%	7.2%	42.0%	42.3%	10.0%	5.7%
28	初等部との教育連携があると思いますか。	15.7%	30.4%	30.4%	23.5%	12.7%	21.4%	33.6%	32.2%
29	悩みが生じたときに、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていますか。	21.9%	39.9%	20.9%	17.3%	33.9%	48.5%	13.3%	4.3%
30	先生は新しい教材を取り入れたり、新しい情報を収集したりするなど、指導力の向上に努めようとしていると思いますか。	31.0%	47.1%	14.4%	7.5%	38.2%	52.3%	6.2%	3.3%

※ アンケート数値はそれぞれ小数第二位を四捨五入

2024年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（生徒用・中等部）

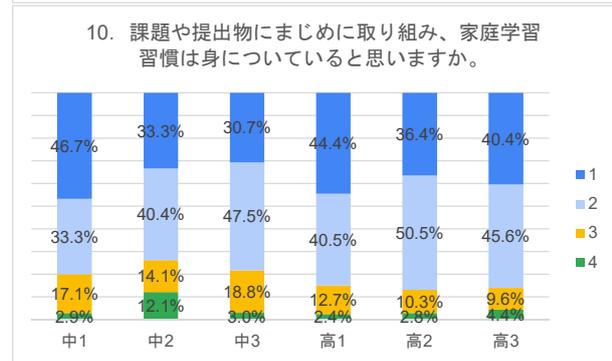
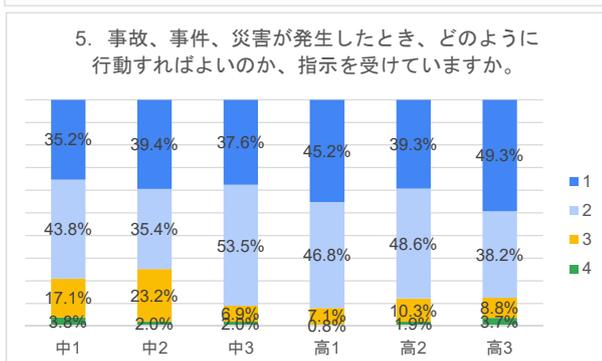
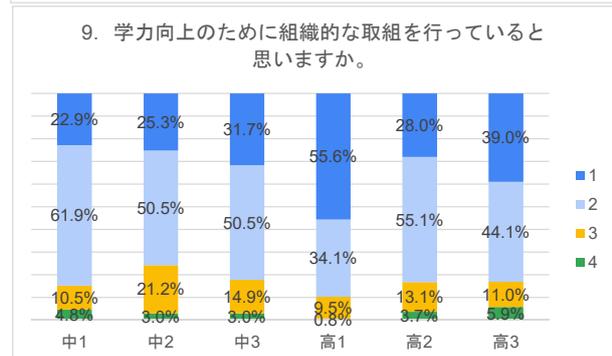
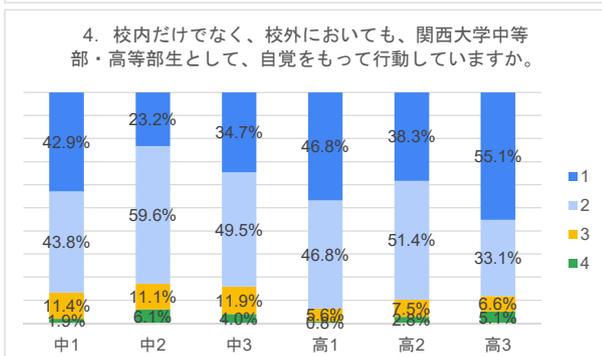
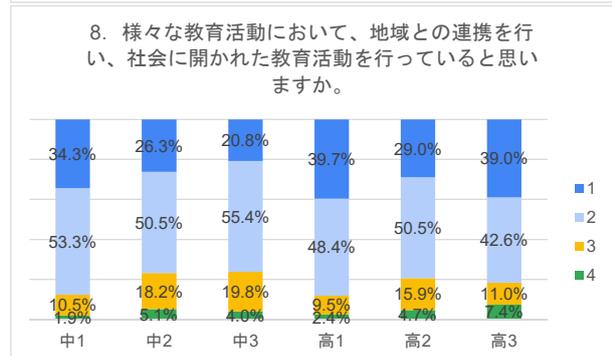
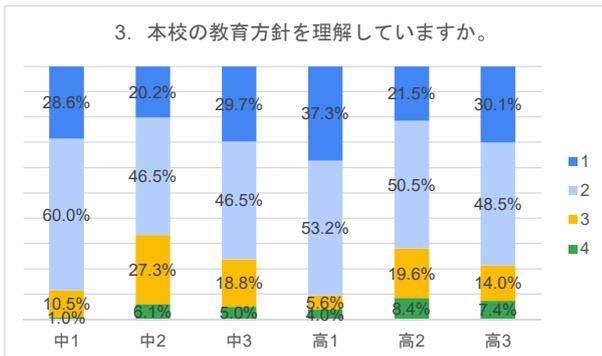
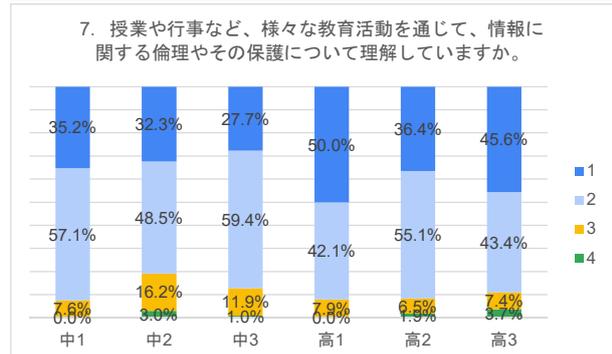
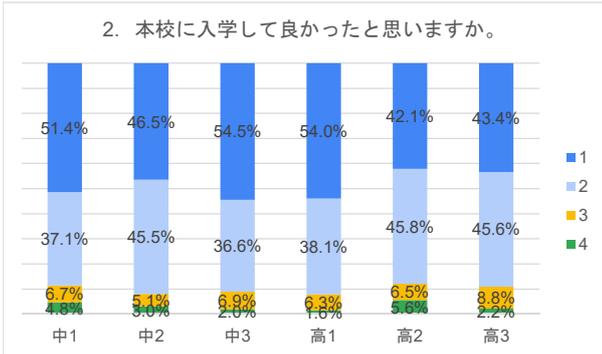
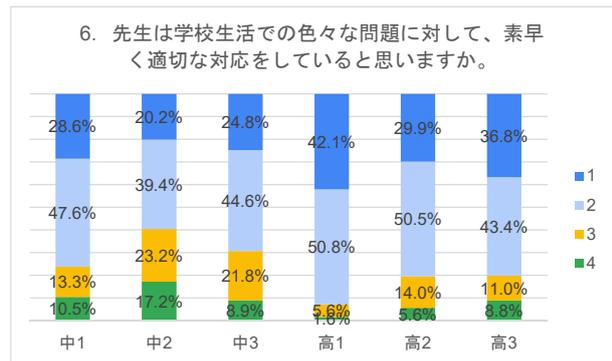
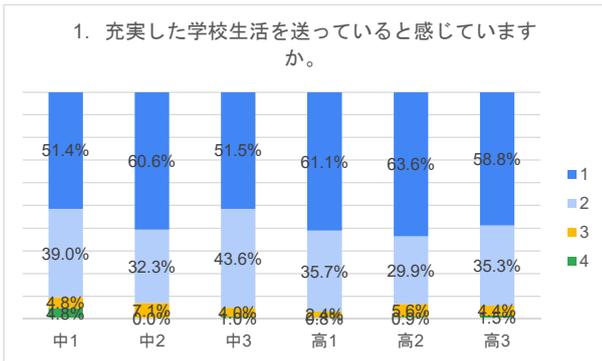


2024年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（生徒用・高等部）



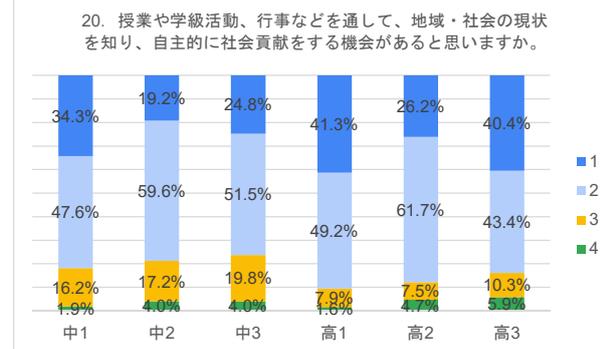
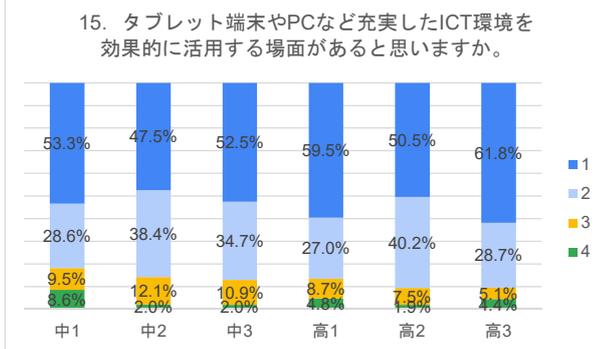
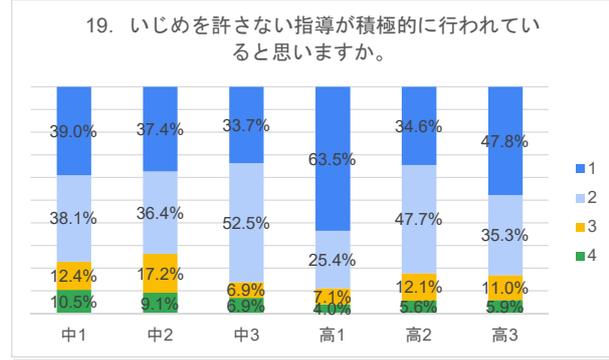
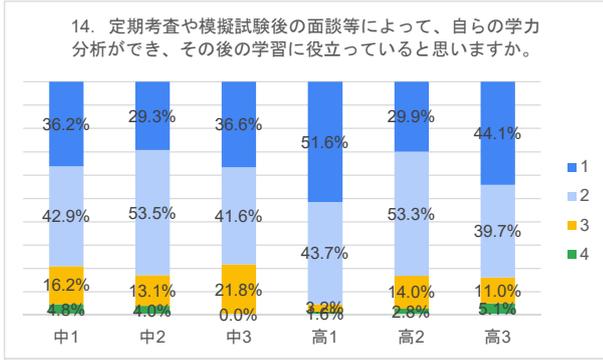
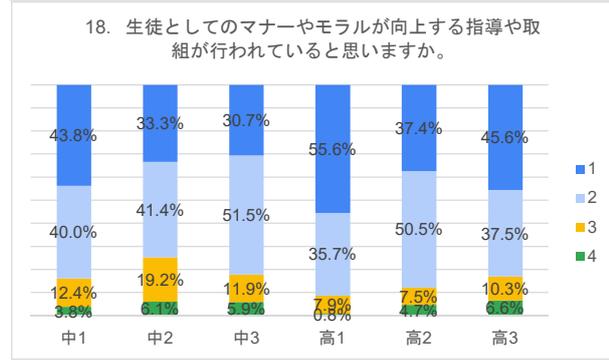
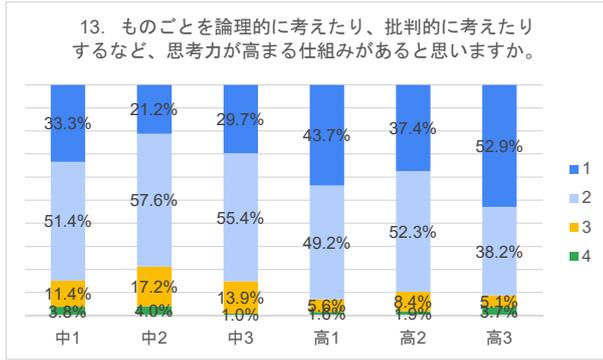
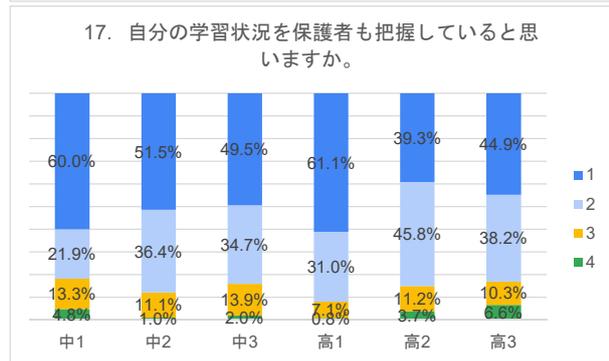
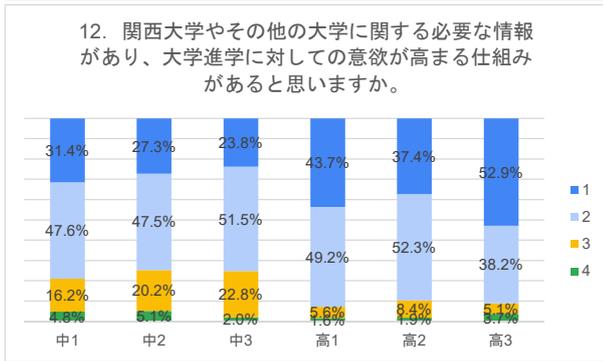
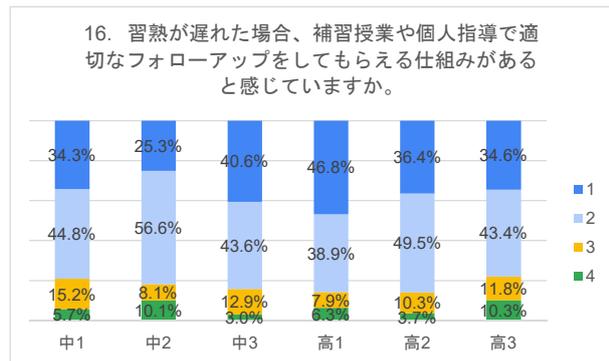
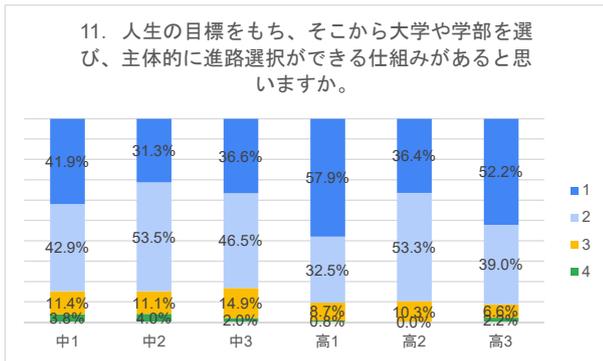
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



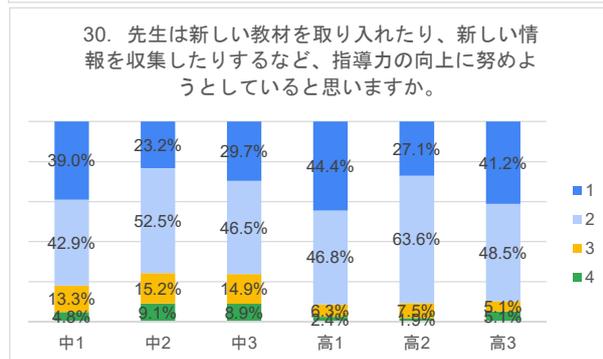
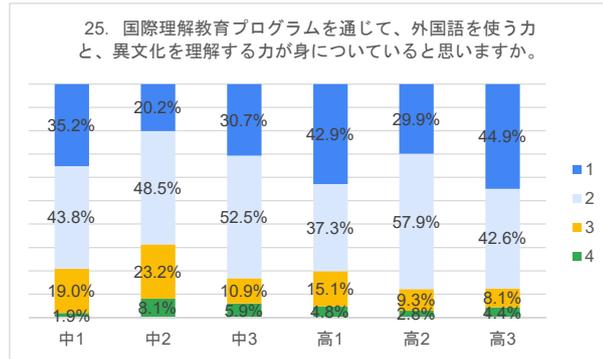
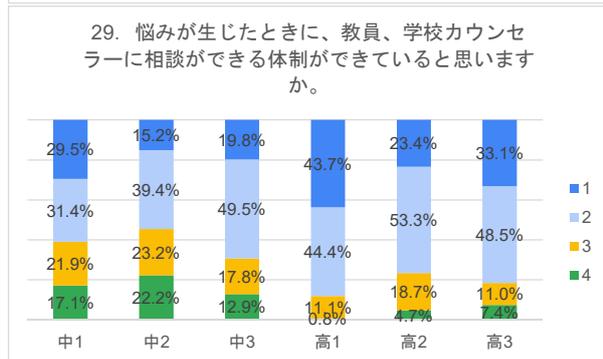
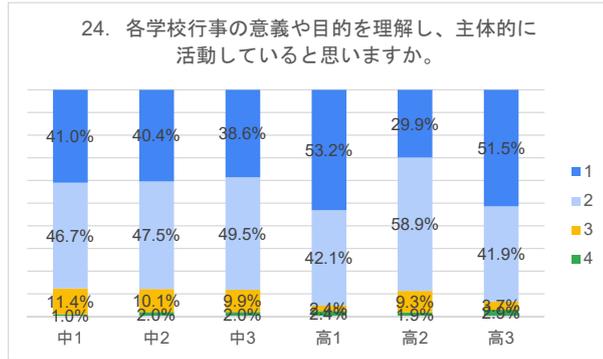
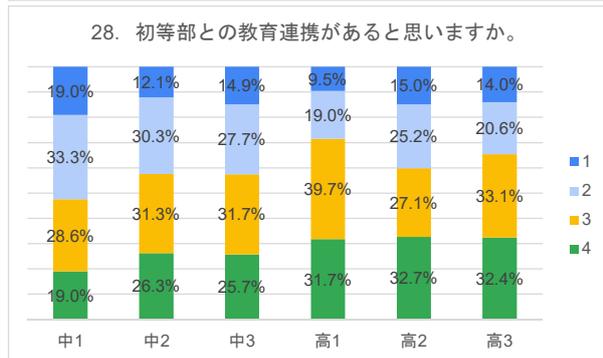
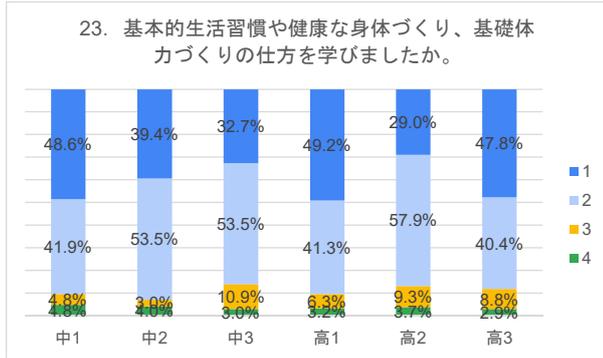
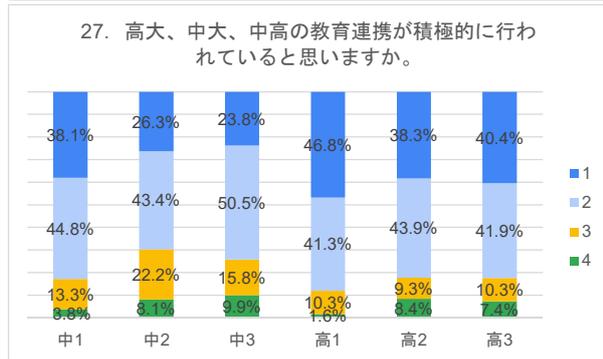
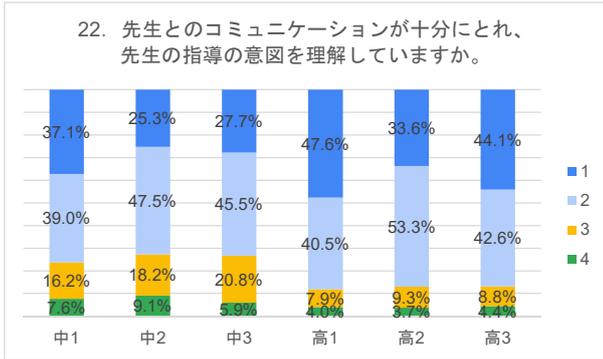
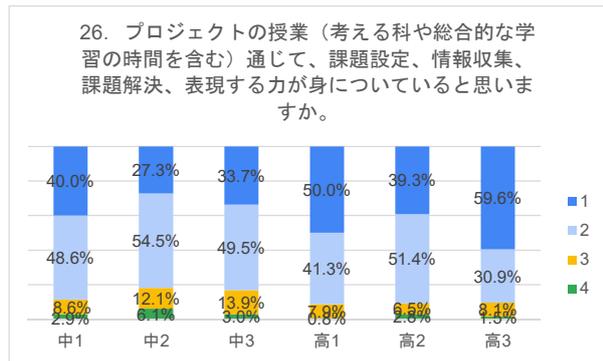
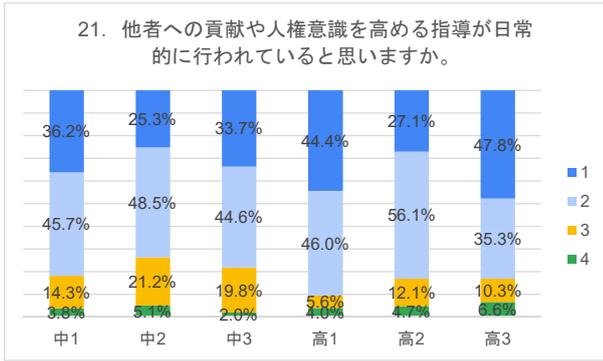
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



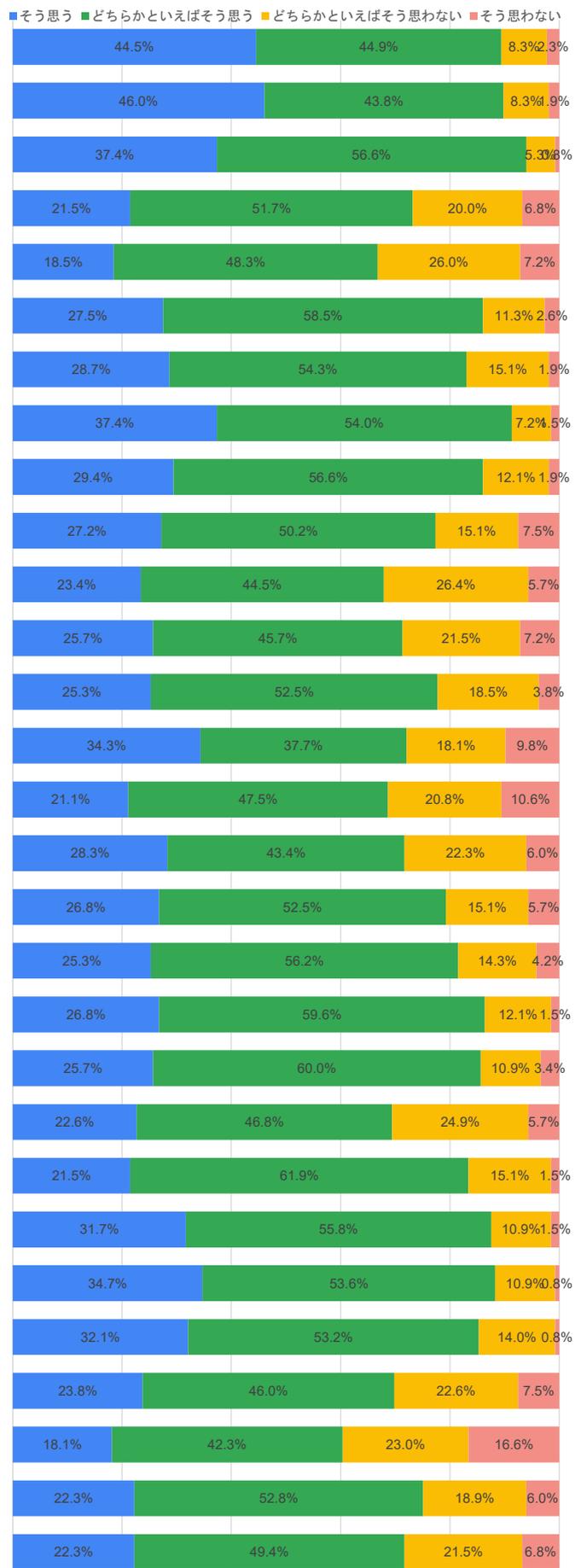
2024年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（保護者用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中等部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	お子様は、充実した学校生活を送っていると思われますか。	44.5%	44.9%	8.3%	2.3%	53.4%	39.4%	5.3%	1.9%
2	保護者として、本校に入学させて良かったと思われますか。	46.0%	43.8%	8.3%	1.9%	58.4%	35.6%	3.1%	2.8%
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	37.4%	56.6%	5.3%	0.8%	40.0%	55.3%	4.7%	0.0%
4	教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われますか。	21.5%	51.7%	20.0%	6.8%	24.7%	54.7%	14.1%	6.6%
5	ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	18.5%	48.3%	26.0%	7.2%	19.4%	50.3%	25.9%	4.4%
6	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われますか。	27.5%	58.5%	11.3%	2.6%	36.6%	56.3%	6.9%	0.3%
7	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われますか。	28.7%	54.3%	15.1%	1.9%	32.2%	54.1%	12.5%	1.3%
8	個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われますか。	37.4%	54.0%	7.2%	1.5%	38.4%	50.6%	10.6%	0.3%
9	教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われますか。	29.4%	56.6%	12.1%	1.9%	32.8%	55.6%	9.4%	2.2%
10	学力向上のために組織的な取組を行っていると思われますか。	27.2%	50.2%	15.1%	7.5%	32.5%	43.8%	17.2%	6.6%
11	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われますか。	23.4%	44.5%	26.4%	5.7%	33.1%	45.0%	15.9%	5.9%
12	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われますか。	25.7%	45.7%	21.5%	7.2%	31.6%	50.0%	12.8%	5.6%
13	生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。	25.3%	52.5%	18.5%	3.8%	38.8%	46.6%	9.4%	5.3%
14	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われますか。	34.3%	37.7%	18.1%	9.8%	52.8%	36.3%	7.5%	3.4%
15	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われますか。	21.1%	47.5%	20.8%	10.6%	25.3%	42.5%	20.6%	11.6%
16	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。	28.3%	43.4%	22.3%	6.0%	32.2%	45.3%	16.9%	5.6%
17	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われますか。	26.8%	52.5%	15.1%	5.7%	35.9%	52.5%	7.8%	3.8%
18	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。	25.3%	56.2%	14.3%	4.2%	34.1%	55.0%	7.5%	3.4%
19	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われますか。	26.8%	59.6%	12.1%	1.5%	33.8%	51.9%	12.2%	2.2%
20	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われますか。	25.7%	60.0%	10.9%	3.4%	30.3%	57.2%	10.0%	2.5%
21	学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。	22.6%	46.8%	24.9%	5.7%	26.9%	47.5%	20.9%	4.7%
22	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。	21.5%	61.9%	15.1%	1.5%	23.4%	55.9%	17.5%	3.1%
23	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導がなされていると思われますか。	31.7%	55.8%	10.9%	1.5%	36.6%	53.1%	8.4%	1.9%
24	国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われますか。	34.7%	53.6%	10.9%	0.8%	40.0%	50.9%	7.2%	1.9%
25	プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われますか。	32.1%	53.2%	14.0%	0.8%	45.6%	48.4%	4.4%	1.6%
26	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思われますか。	23.8%	46.0%	22.6%	7.5%	35.9%	44.7%	12.5%	6.9%
27	初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われますか。	18.1%	42.3%	23.0%	16.6%	21.6%	47.8%	21.6%	9.1%
28	お子様に何らかの問題が生じたとき、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思えますか。	22.3%	52.8%	18.9%	6.0%	27.5%	52.5%	14.4%	5.6%
29	本校の教員は、教員の資質及び指導力の向上に努めようとしていると思えますか。	22.3%	49.4%	21.5%	6.8%	31.9%	47.5%	10.0%	10.6%

2024年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（保護者用・中等部）

NO	設問
1	お子様は、充実した学校生活を送っていると思われませんか。
2	保護者として、本校に入学させて良かったと思われませんか。
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。
4	教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われませんか。
5	ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。
6	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。
7	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われませんか。
8	個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。
9	教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われませんか。
10	学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。
11	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われませんか。
12	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われませんか。
13	生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われませんか。
14	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われませんか。
15	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われませんか。
16	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われませんか。
17	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。
18	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われませんか。
19	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われませんか。
20	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われませんか。
21	学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われませんか。
22	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われませんか。
23	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導がなされていると思われませんか。
24	国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われませんか。
25	プロジェクト型の授業を通して、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われませんか。
26	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思われませんか。
27	初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われませんか。
28	お子様に何らかの問題が生じたとき、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。
29	本校の教員は、教員の資質及び指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。

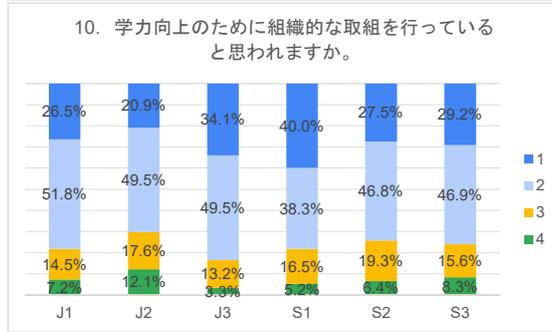
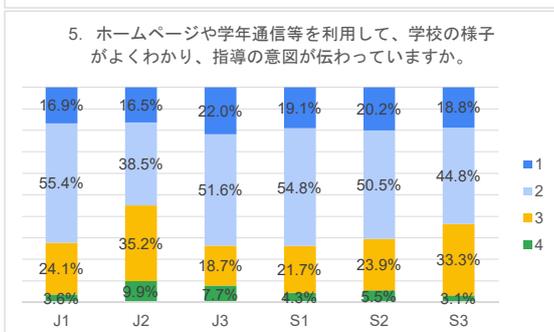
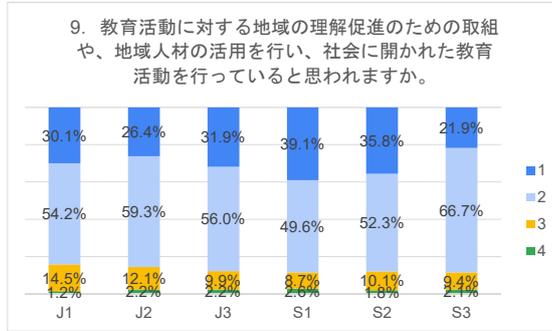
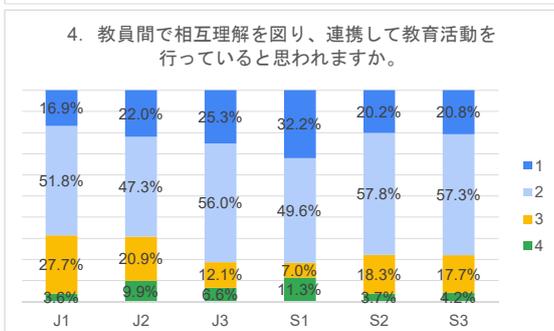
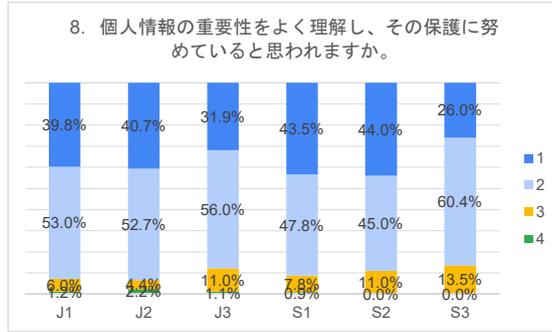
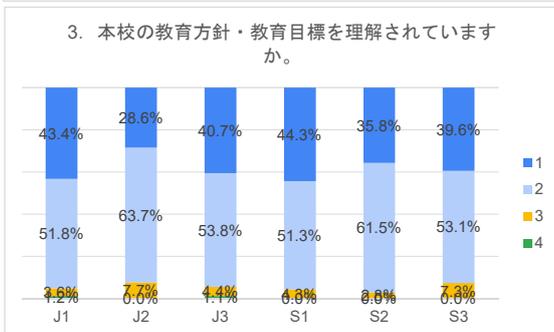
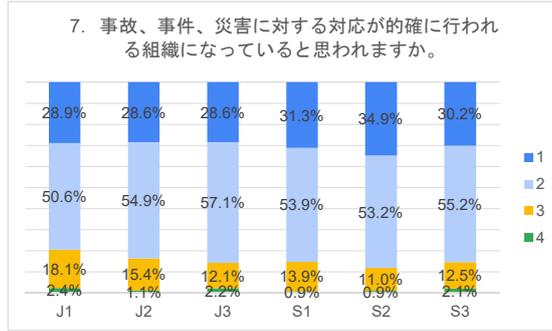
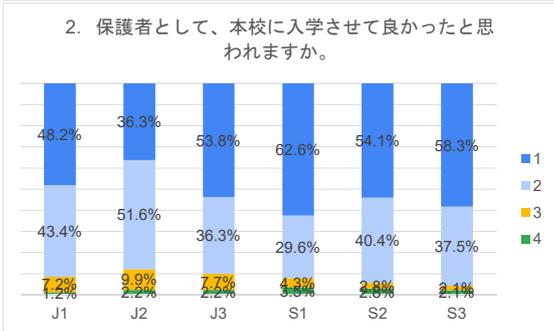
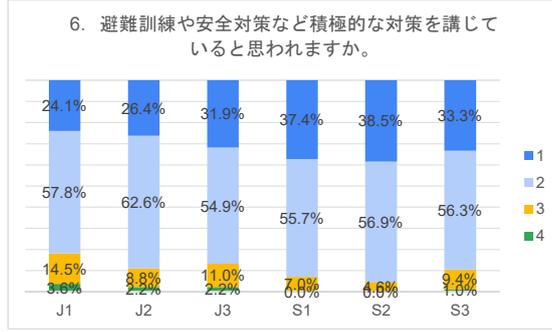
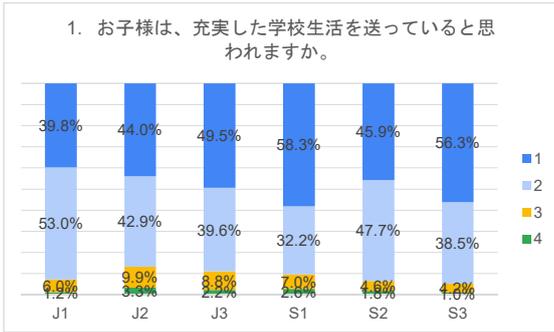


2024年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（保護者用・高等部）

NO	設問	■ そう思う	■ どちらかというと思う	■ どちらかというと思わない	■ そう思わない
1	お子様は、充実した学校生活を送っていると思われますか。	53.4%	39.4%	5.3%	2.9%
2	保護者として、本校に入学させて良かったと思われますか。	58.4%	35.6%	3.2%	2.8%
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	40.0%	55.3%	4.7%	0.0%
4	教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われますか。	24.7%	54.7%	14.1%	6.6%
5	ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	19.4%	50.3%	25.9%	4.4%
6	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われますか。	36.6%	56.3%	6.9%	0.3%
7	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われますか。	32.2%	54.1%	12.5%	1.3%
8	個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われますか。	38.4%	50.6%	10.6%	0.3%
9	教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われますか。	32.8%	55.6%	9.4%	2.2%
10	学力向上のために組織的な取組を行っていると思われますか。	32.5%	43.8%	17.2%	6.6%
11	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われますか。	33.1%	45.0%	15.9%	5.9%
12	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われますか。	31.6%	50.0%	12.8%	5.6%
13	生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。	38.8%	46.6%	9.4%	5.3%
14	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われますか。	52.8%	36.3%	7.5%	3.4%
15	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われますか。	25.3%	42.5%	20.6%	11.6%
16	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。	32.2%	45.3%	16.9%	5.6%
17	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われますか。	35.9%	52.5%	7.8%	3.8%
18	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。	34.1%	55.0%	7.5%	3.4%
19	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われますか。	33.8%	51.9%	12.2%	2.2%
20	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われますか。	30.3%	57.2%	10.0%	2.5%
21	学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。	26.9%	47.5%	20.9%	4.7%
22	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。	23.4%	55.9%	17.5%	3.1%
23	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導がなされていると思われますか。	36.6%	53.1%	8.4%	1.9%
24	国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われますか。	40.0%	50.9%	7.2%	1.9%
25	プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われますか。	45.6%	48.4%	4.4%	1.6%
26	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思われますか。	35.9%	44.7%	12.5%	6.9%
27	初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われますか。	21.6%	47.8%	21.6%	9.1%
28	お子様に何らかの問題が生じたとき、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	27.5%	52.5%	14.4%	5.6%
29	本校の教員は、教員の資質及び指導力の向上に努めようとしていると思われますか。	31.9%	47.5%	10.0%	10.6%

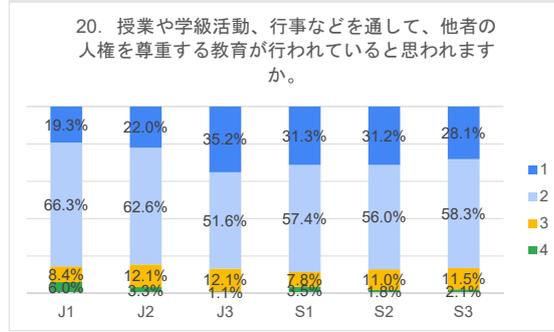
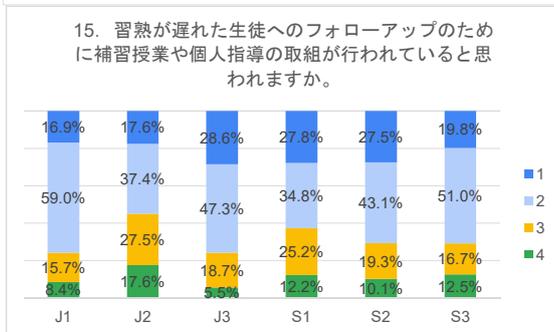
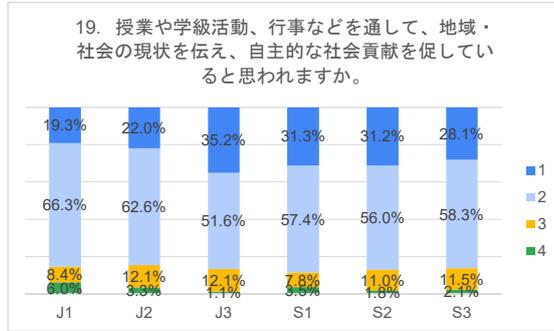
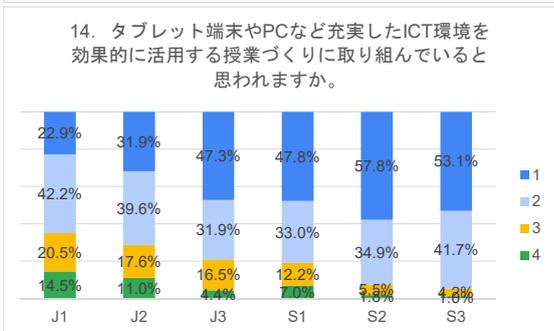
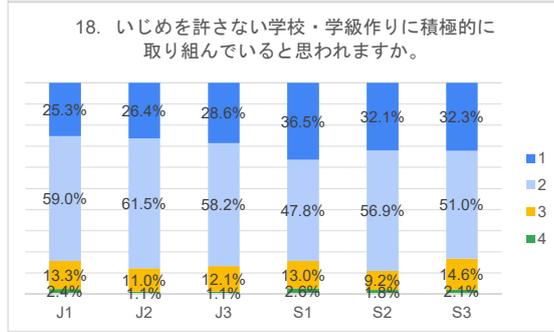
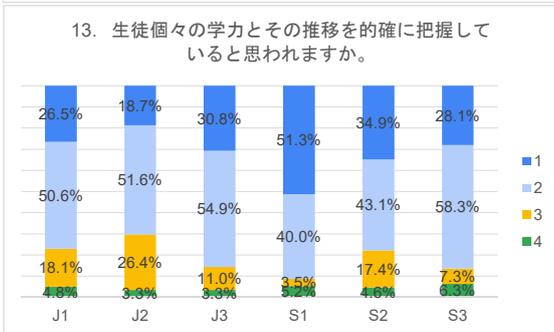
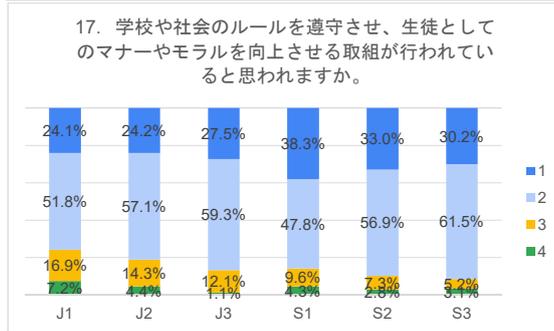
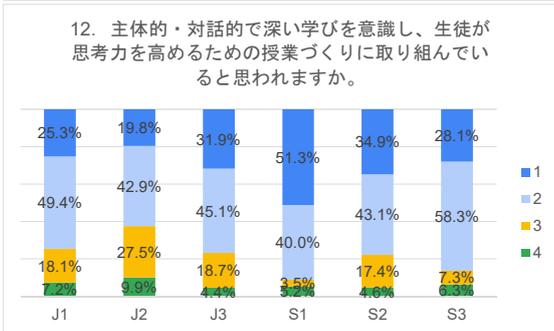
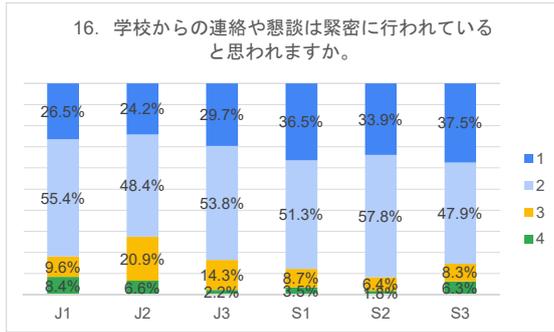
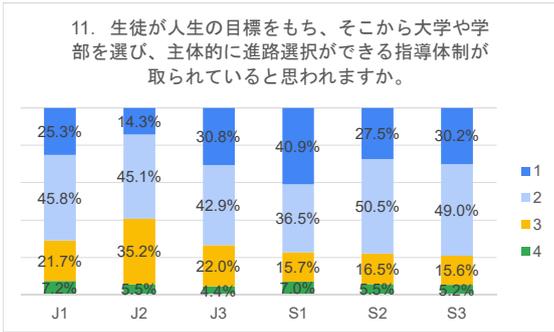
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



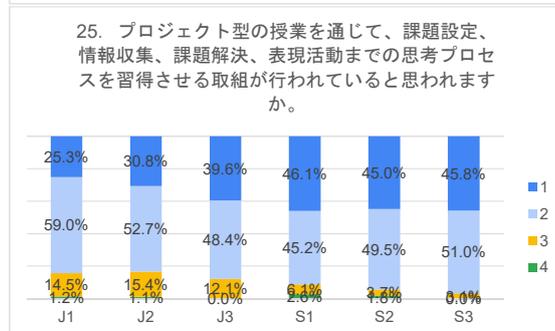
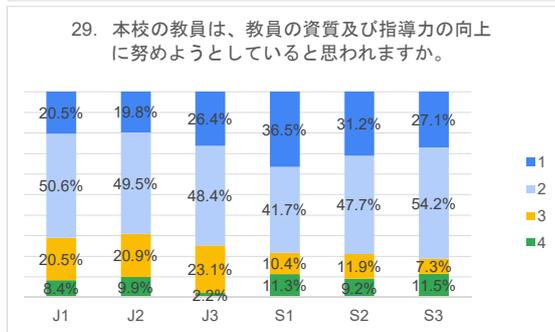
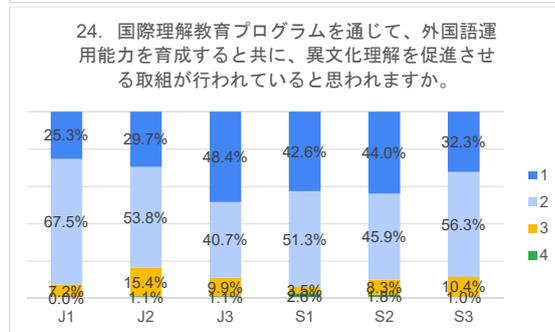
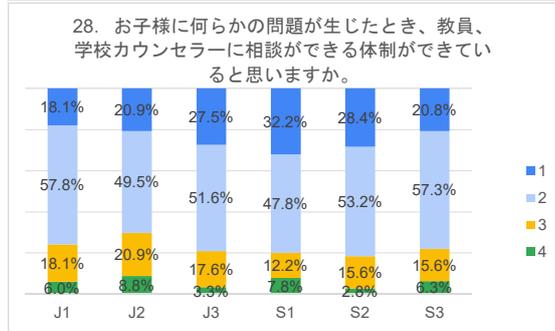
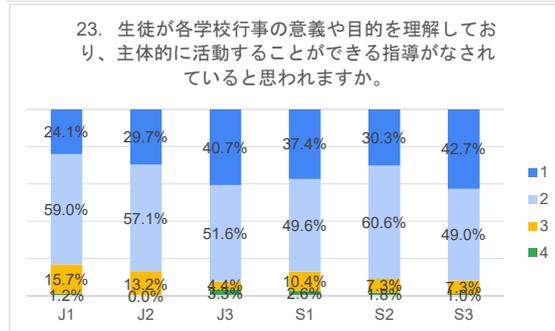
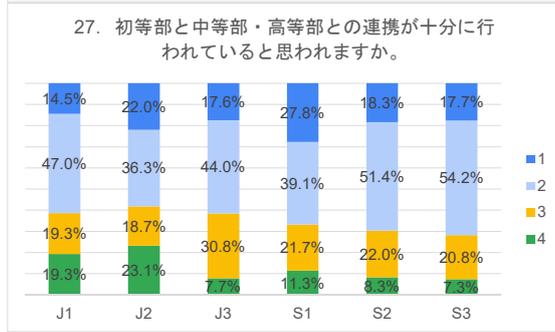
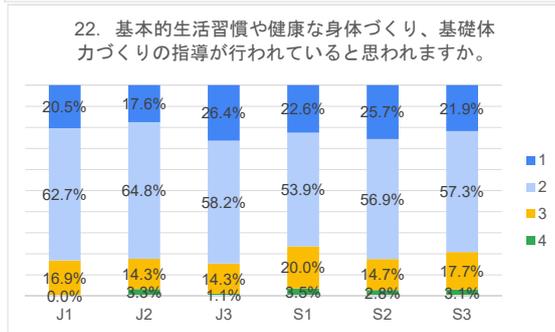
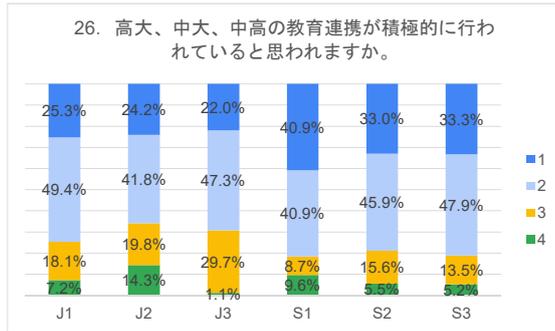
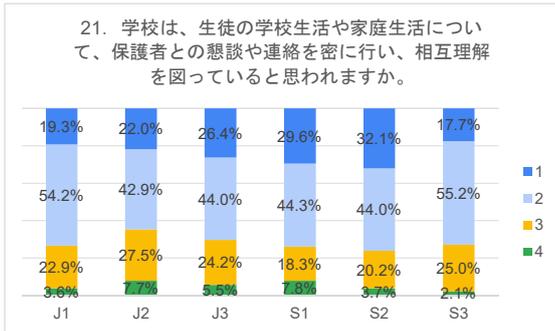
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



2024年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（教員用）

[1] そう思う		[2] どちらかと言えばそう思う		[3] どちらかと言えばそう思わない		[4] そう思わない	
NO	設問	1	2	3	4		
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。（共通項目）	39.1%	58.7%	2.2%	0.0%		
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。（共通項目）	13.0%	76.1%	10.9%	0.0%		
3	本校の教育方針・教育目標を教職員・保護者などの関係者が理解している。（共通項目）	15.2%	65.2%	19.6%	0.0%		
4	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。（共通項目）	34.8%	39.1%	26.1%	0.0%		
5	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	19.6%	63.0%	15.2%	2.2%		
6	管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	32.6%	45.7%	19.6%	2.2%		
7	教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	47.8%	50.0%	2.2%	0.0%		
8	ホームページや学年通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を行っている。	30.4%	54.3%	13.0%	2.2%		
9	警察や消防署等と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。（共通項目）	45.7%	43.5%	8.7%	2.2%		
10	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	43.5%	39.1%	17.4%	0.0%		
11	生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	37.0%	63.0%	0.0%	0.0%		
12	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っている。	37.0%	41.3%	21.7%	0.0%		
13	学力向上のための組織的な取組を行っている。（共通項目）	23.9%	41.3%	30.4%	4.3%		
14	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られている。	13.0%	73.9%	10.9%	2.2%		
15	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。	19.6%	63.0%	17.4%	0.0%		
16	定期考査や模擬試験等の結果の活用や面談等を実施し、学習状況を計画的に把握して、学年集団・個人への効果的な学習指導体制が取られている。	23.9%	63.0%	10.9%	2.2%		
17	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。	32.6%	50.0%	15.2%	2.2%		
18	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導を行っている。（共通項目）	34.8%	54.3%	8.7%	2.2%		
19	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。（共通項目）	39.1%	60.9%	0.0%	0.0%		
20	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。（共通項目）	23.9%	47.8%	23.9%	4.3%		
21	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として対応できている。（共通項目）	39.1%	58.7%	2.2%	0.0%		
22	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促している。	19.6%	54.3%	23.9%	2.2%		
23	授業や学級活動、行事などを通して、他人の人権を尊重する教育が行われている。	23.9%	69.6%	6.5%	0.0%		
24	生徒の学校での様子の報告や、家庭での様子の把握のため、電話連絡や面談等を行い、保護者との連絡を緊密に行い、相互理解を図っている。	45.7%	54.3%	0.0%	0.0%		
25	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。（共通項目）	17.4%	54.3%	26.1%	2.2%		
26	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導体制が取られている。	32.6%	54.3%	13.0%	0.0%		
27	国際理解教育プログラムを充実させ、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組を行っている。	43.5%	54.3%	2.2%	0.0%		
28	プロジェクト型の授業を取り入れ、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組を行っている。	50.0%	39.1%	10.9%	0.0%		
29	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われている。（共通項目）	34.8%	45.7%	17.4%	2.2%		
30	初中高間での授業見学や、初中合同または初中高合同の行事を行い、初中高連携を図っている。	28.3%	47.8%	21.7%	2.2%		
31	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が整っている。（共通項目）	41.3%	50.0%	8.7%	0.0%		
32	本校は、教員の資質向上及び指導力向上のための校内外の研修体制が充実している。（共通項目）	23.9%	43.5%	30.4%	2.2%		
33	授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。	21.7%	56.5%	19.6%	2.2%		

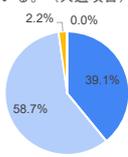
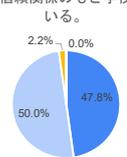
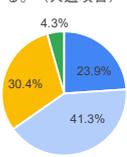
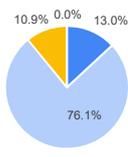
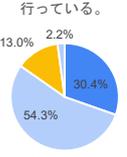
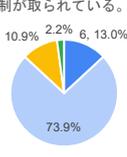
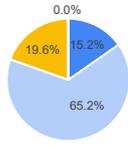
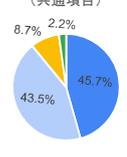
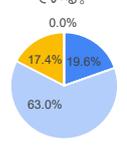
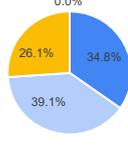
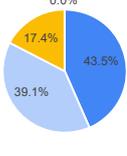
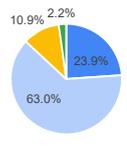
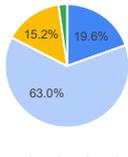
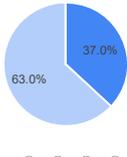
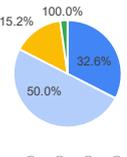
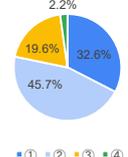
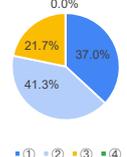
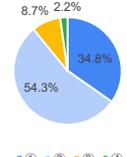
※ アンケート数値はそれぞれ小数第二位を四捨五入

2024年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（教員用）

NO	設問	■ そう思う	■ どちらかといえばそう思う	■ どちらかといえばそう思わない	■ そう思わない
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。(共通項目)	39.1%	58.7%	2.2%	
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。(共通項目)	13.0%	76.1%	10.9%	
3	本校の教育方針・教育目標を教職員・保護者などの関係者が理解している。(共通項目)	15.2%	65.2%	19.6%	
4	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。(共通項目)	34.8%	39.1%	26.1%	
5	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	19.6%	63.0%	15.2%	
6	管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	32.6%	45.7%	19.6%	2.2%
7	教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	47.8%	50.0%	2.2%	
8	ホームページや学年通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を行っている。	30.4%	54.3%	13.0%	
9	警察や消防署等と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。(共通項目)	45.7%	43.5%	8.7%	
10	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	43.5%	39.1%	17.4%	
11	生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	37.0%	63.0%	0.0%	
12	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っている。	37.0%	41.3%	21.7%	
13	学力向上のための組織的な取組を行っている。(共通項目)	23.9%	41.3%	30.4%	
14	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られている。	13.0%	73.9%	10.9%	
15	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。	19.6%	63.0%	17.4%	
16	定期考査や模擬試験等の結果の活用や面談等を実施し、学習状況を計画的に把握して、学年集団・個人への効果的な学習指導体制が取られている。	23.9%	63.0%	10.9%	
17	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。	32.6%	50.0%	15.2%	
18	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導を行っている。(共通項目)	34.8%	54.3%	8.7%	
19	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。(共通項目)	39.1%	60.9%	0.0%	
20	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。(共通項目)	23.9%	47.8%	23.9%	
21	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として対応できている。(共通項目)	39.1%	58.7%	2.2%	
22	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促している。	19.6%	54.3%	23.9%	
23	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われている。	23.9%	69.6%	6.5%	
24	生徒の学校での様子の報告や、家庭での様子の把握のため、電話連絡や面談等を行い、保護者との連絡を緊密に行い、相互理解を図っている。	45.7%	54.3%	0.0%	
25	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。(共通項目)	17.4%	54.3%	26.1%	
26	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導体制が取られている。	32.6%	54.3%	13.0%	
27	国際理解教育プログラムを充実させ、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組を行っている。	43.5%	54.3%	2.2%	
28	プロジェクト型の授業を取り入れ、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組を行っている。	50.0%	39.1%	10.9%	
29	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われている。(共通項目)	34.8%	45.7%	17.4%	
30	初中高間での授業見学や、初中合同または初中高合同の行事を行い、初中高連携を図っている。	28.3%	47.8%	21.7%	
31	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が整っている。(共通項目)	41.3%	50.0%	8.7%	
32	本校は、教員の資質向上及び指導力向上のための校内外の研修体制が充実している。(共通項目)	23.9%	43.5%	30.4%	
33	授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。	21.7%	56.5%	19.6%	

教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

<p>1. 本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。(共通項目)</p>  <p>2.2% 0.0% 58.7% 39.1%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>7. 教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。</p>  <p>2.2% 0.0% 50.0% 47.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>13. 学力向上のための組織的な取組を行っている。(共通項目)</p>  <p>4.3% 23.9% 41.3% 30.4%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>2. 本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。(共通項目)</p>  <p>10.9% 0.0% 76.1% 13.0%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>8. ホームページや学年通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を行っている。</p>  <p>13.0% 2.2% 30.4% 54.3%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>14. 生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られている。</p>  <p>10.9% 2.2% 73.9% 6.1%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>3. 本校の教育方針・教育目標を教職員・保護者などの関係者が理解している。(共通項目)</p>  <p>0.0% 19.6% 65.2% 15.2%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>9. 警察や消防署等と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。(共通項目)</p>  <p>8.7% 2.2% 45.7% 43.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>15. 主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。</p>  <p>0.0% 17.4% 63.0% 19.6%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>4. 職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。(共通項目)</p>  <p>0.0% 26.1% 39.1% 34.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>10. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。</p>  <p>0.0% 17.4% 39.1% 43.5%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>16. 定期考査や模擬試験等の結果の活用や面談等を実施し、学習状況を計画的に把握して、学年集団・個人への効果的な学習指導体制が取られている。</p>  <p>10.9% 2.2% 63.0% 23.9%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>5. 教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。</p>  <p>2.2% 15.2% 63.0% 19.6%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>11. 生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。</p>  <p>0.0% 0.0% 63.0% 37.0%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>17. タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。</p>  <p>15.2% 100.0% 50.0% 32.6%</p> <p>① ② ③ ④</p>
<p>6. 管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。</p>  <p>2.2% 19.6% 45.7% 32.6%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>12. 本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っている。</p>  <p>0.0% 21.7% 41.3% 37.0%</p> <p>① ② ③ ④</p>	<p>18. 習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導を行っている。(共通項目)</p>  <p>8.7% 2.2% 54.3% 34.8%</p> <p>① ② ③ ④</p>

教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

<p>19. 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。(共通項目)</p>	<p>25. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。(共通項目)</p>	<p>31. 生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が整っている。(共通項目)</p>
<p>20. 生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。(共通項目)</p>	<p>26. 生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導体制が取られている。</p>	<p>32. 本校は、教員の資質向上及び指導力向上のための校内外の研修体制が充実している。(共通項目)</p>
<p>21. いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として対応できている。(共通項目)</p>	<p>27. 国際理解教育プログラムを充実させ、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組を行っている。</p>	<p>33. 授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。</p>
<p>22. 授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促している。</p>	<p>28. プロジェクト型の授業を取り入れ、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組を行っている。</p>	
<p>23. 授業や学級活動、行事などを通して、他人の人権を尊重する教育が行われている。</p>	<p>29. 高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われている。(共通項目)</p>	
<p>24. 生徒の学校での様子の報告や、家庭での様子の把握のため、電話連絡や面談等を行い、保護者との連絡を緊密に行い、相互理解を図っている。</p>	<p>30. 初中高間での授業見学や、初中合同または初中高合同の行事を行い、初中連携を図っている。</p>	